

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2026年1月から3月
2. 調査対象：小樽市内の企業258社
3. 内 訳：製造業55、卸売業27、小売業41、運輸・倉庫業20、観光業44
サービス業39、建設業32
4. 回答企業数：120社（46.5%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

ー業況DIは3期ぶりのプラス水準であったが、売上DIは16期ぶり、採算DIは4期連続のマイナス水準にー
前年同期（2025年1月～3月）と比べた今期（2026年1月～3月）の状況
今期と比べた来期（2026年4月～6月）の予想

全業種における企業の景況感を示す業況判断DIは2.2で、前年同期比で5.3ポイント低下しました。主要3項目のうち、業況DIは3期ぶりのプラス水準となりましたが、売上DIは16期ぶり、採算DIは4期連続のマイナス水準となりました。来期の業況DIは1.1ポイント低下ながらもプラス水準、売上DIはプラス水準、採算DIはマイナス水準になると予想されています。

製造業では、売上DIが前年同期比28.9ポイント低下の▲26.1、採算DIは同10.5ポイント低下の▲33.4、業況DIは同8.0ポイント上昇の▲8.7ポイントとなりました。

卸売業では、売上DIが同62.0ポイント低下の▲35.7、採算DIは同33.9ポイント低下の▲28.6と、ともに30ポイント以上の低下となり、マイナスに転じました。業況DIは同7.1ポイント上昇の7.1となりました。

小売業では、売上DIが同45.4ポイント上昇の45.4、採算DIは同7.3ポイント上昇の27.3、業況DIは同21.4ポイント上昇の36.4となり、いずれもプラスとなりました。

運輸・倉庫業では、売上DIが同31.1ポイント低下の14.3、採算DIは同57.7ポイント低下の▲7.7、業況DIは同38.4ポイント低下の▲7.1となり、いずれも30ポイント以上の低下となりました。採算DIと業況DIはマイナスに転じました。

観光業では、売上DIが同73.4ポイント低下の▲4.8、採算DIは同74.2ポイント低下の▲42.8、業況DIは同65.7ポイント低下の▲14.3となり、いずれも60ポイント以上の低下によりマイナスに転じました。特に、利用客数DIについては68.5から▲33.4へ101.9ポイントの大幅な低下となりました。

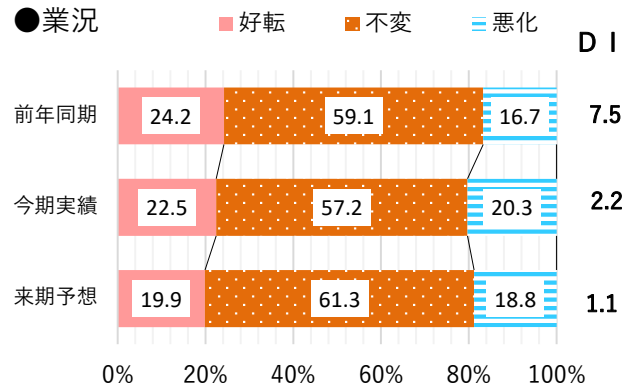
サービス業では、売上DIは変化なしの0、採算DIは同6.1ポイント上昇の▲5.0、業況DIは同10.0ポイント低下の▲10.0となりました。

建設業では、売上DIが同8.4ポイント上昇の▲5.9、採算DIは同10.8ポイント上昇の▲17.7、業況DIは同40.3ポイント上昇の11.8となりました。

業況、売上、採算

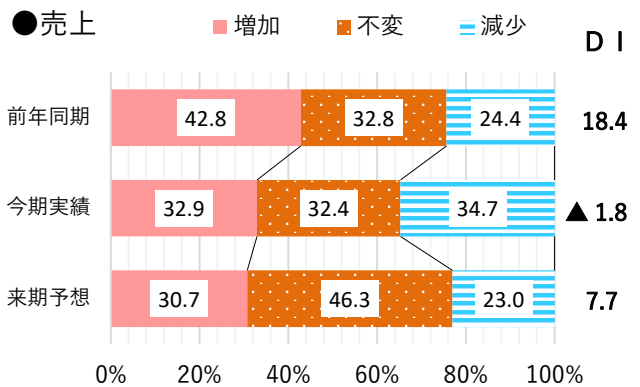
今期（2026.1～3）の業況DIは2.2で、前年同期（2025.1～3）と比べ5.3ポイント低下しました。

来期（2026.4～6）の業況DIは今期（2026.1～3）と比べ1.1ポイント低下すると予想しています。



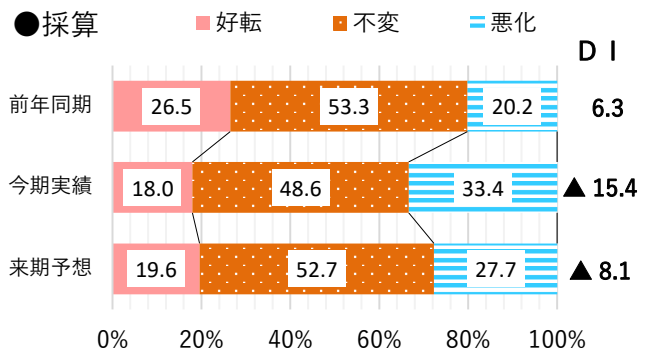
今期の売上DIは▲1.8で、前年同期と比べ20.2ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ9.5ポイント上昇すると予想しています。

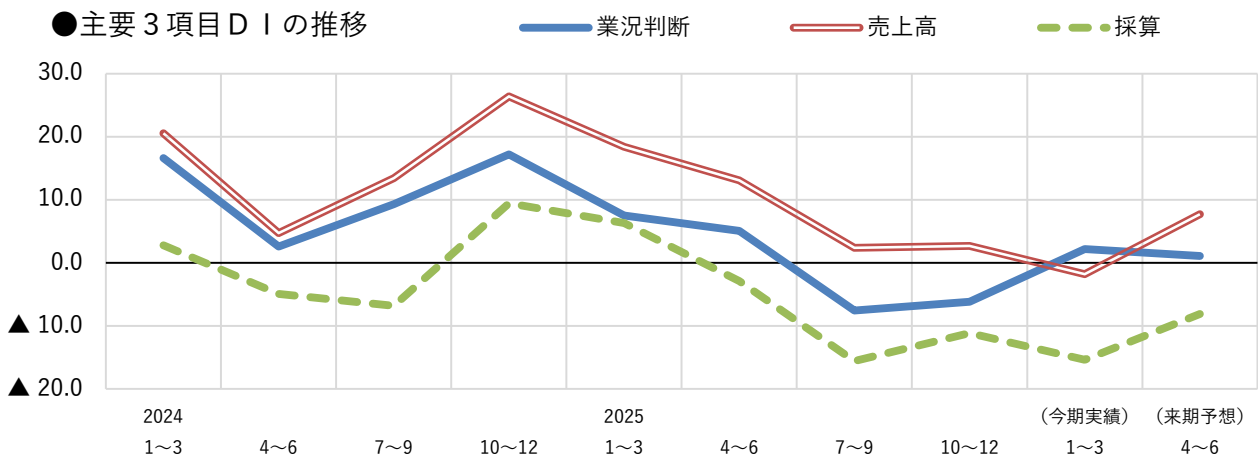


今期の採算DIは▲15.4で、前年同期と比べ21.7ポイント低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ7.3ポイント上昇すると予想しています。



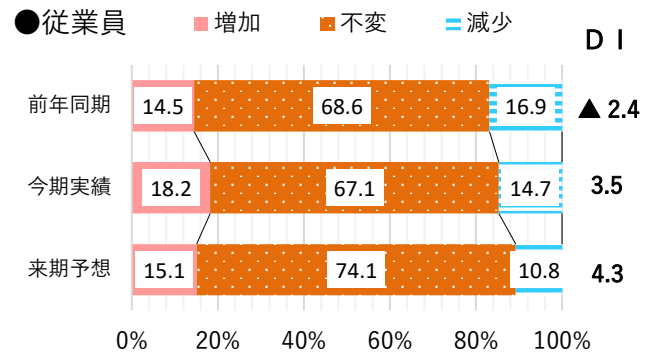
●主要3項目DIの推移



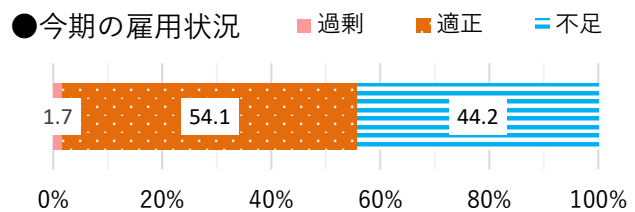
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは3.5で、前年同期と比べ5.9ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは今期と比べ0.8ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は1.7%、適正であると回答した企業の割合は54.1%、不足していると回答した企業の割合は44.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、37.5%を占めました。

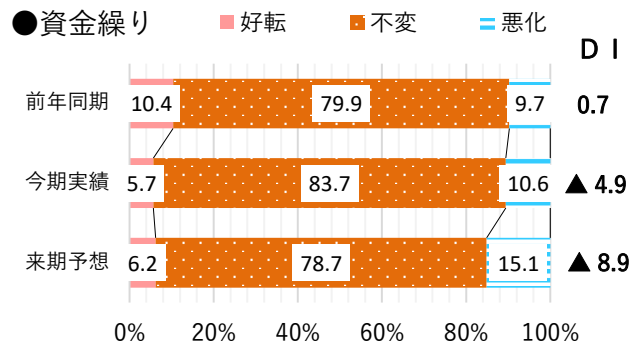
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	14.2%
	不足	3.3%
不変だった	過剰	1.7%
	適正	37.5%
	不足	28.3%
減少した	過剰	0%
	適正	2.5%
	不足	12.5%

※回答総数120社

資金繰り、設備投資

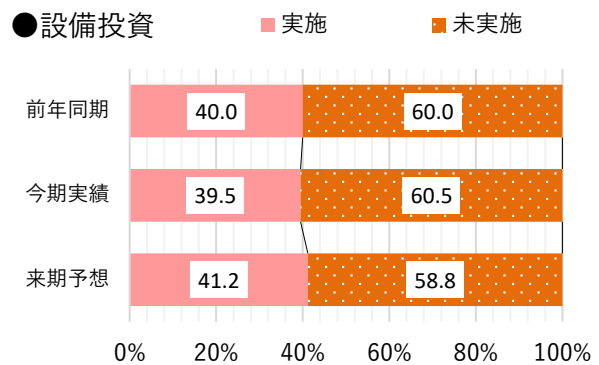
今期の資金繰りDIは▲4.9で、前年同期と比べ5.6ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ4.0ポイント低下すると予想しています。



今期の設備投資は39.5%が実施と回答し、前年同期と比べ0.5%低下しました。投資内容は、1位が「車両・輸送機材」、2位が「OA機器」でした。

来期は41.2%が設備投資を計画していると回答しています。

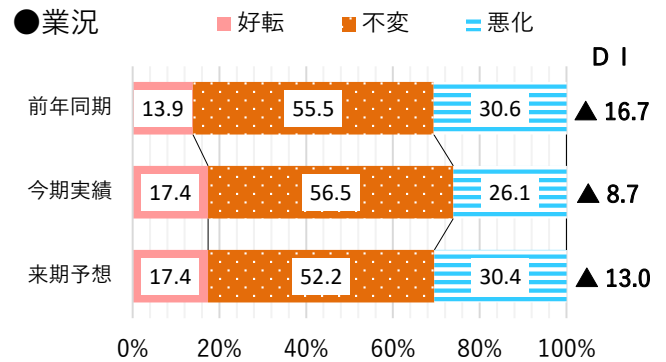


製造業

業況、売上、採算

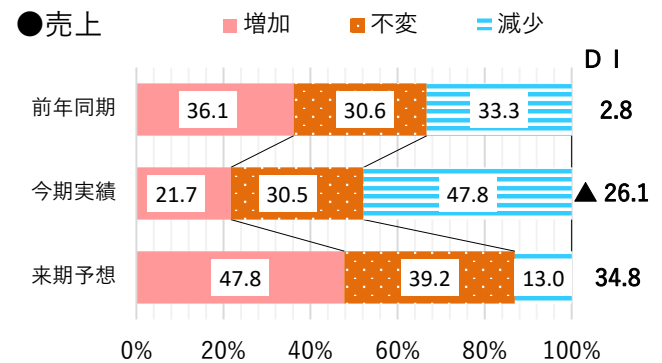
今期（2026.1～3）の業況DIは▲8.7で、前年同期（2025.1～3）と比べ8.0ポイント上昇しました。

来期（2026.4～6）の業況DIは今期（2026.1～3）と比べ4.3ポイント低下すると予想しています。



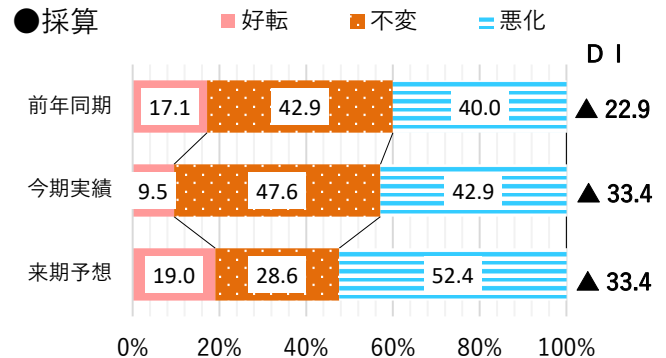
今期の売上DIは▲26.1で、前年同期と比べ28.9ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ60.9ポイント上昇すると予想しています。

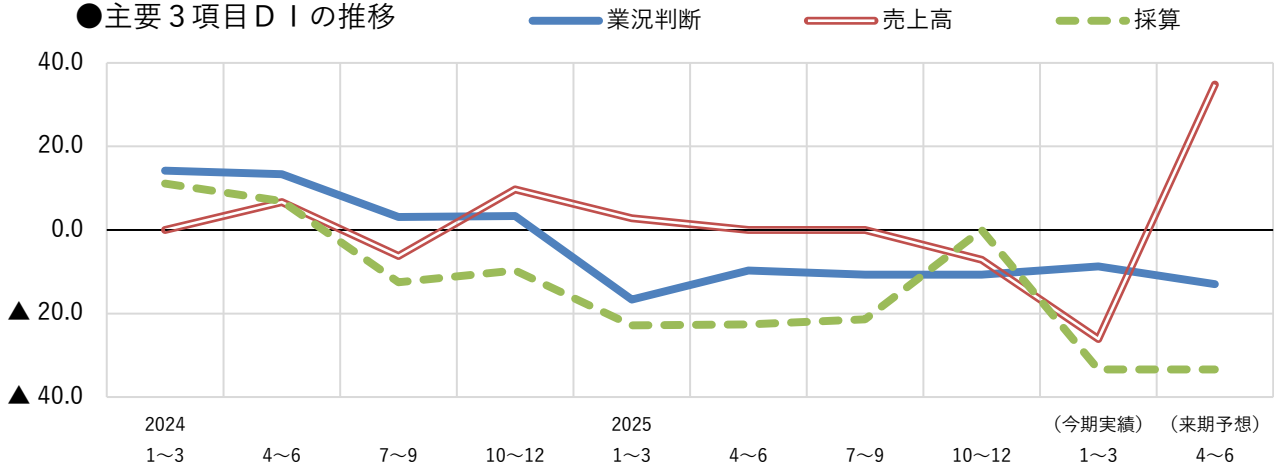


今期の採算DIは▲33.4で、前年同期と比べ10.5ポイント低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



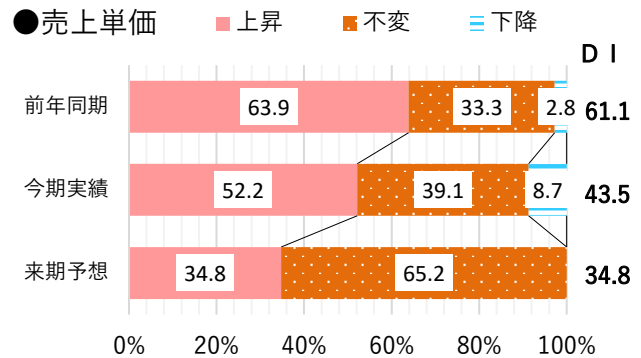
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

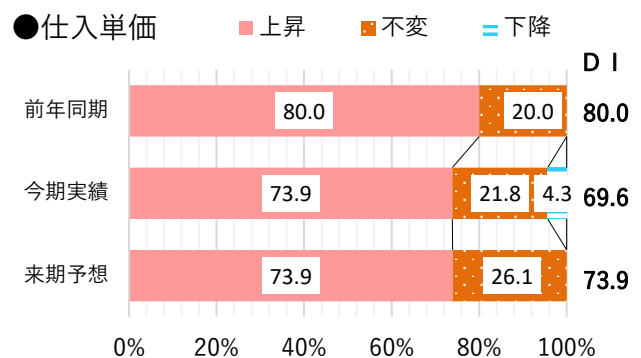
今期の売上単価DIは43.5で、前年同期と比べ17.6ポイント低下しました。

来期の売上単価DIは今期と比べ8.7ポイント低下すると予想しています。



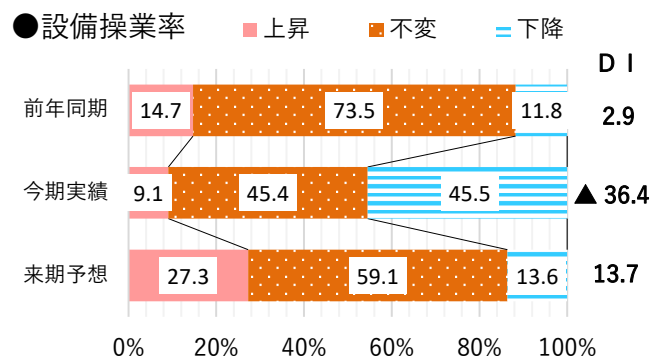
今期の仕入単価DIは69.6で、前年同期と比べ10.4ポイント低下しました。

来期の仕入単価DIは今期と比べ4.3ポイント上昇すると予想しています。



今期の設備操業率DIは▲36.4で、前年同期と比べ39.3ポイントと大幅に低下しました。

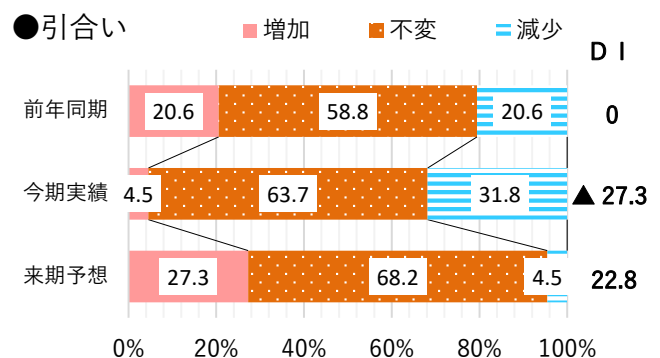
来期の設備操業率DIは今期と比べ50.1ポイント上昇すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲27.3で、前年同期と比べ27.3ポイント低下しました。

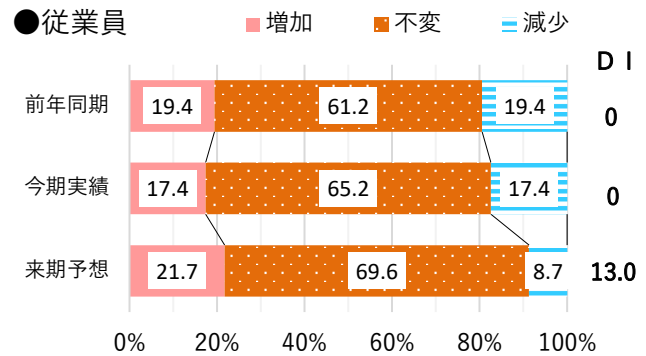
来期の引合いDIは今期と比べ50.1ポイント上昇すると予想しています。



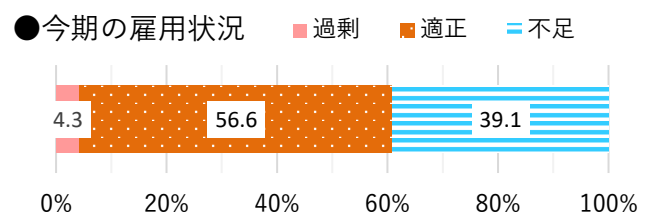
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0で、前年同期と比べ変化なしとなりました。

来期の従業員DIは今期と比べ13.0ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は4.3%、適正であると回答した企業の割合は56.6%、不足していると回答した企業の割合は39.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、39.1%を占めました。

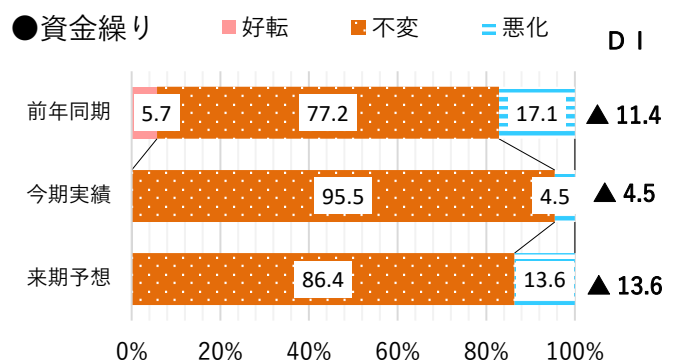
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	13.0%
	不足	4.3%
不変だった	過剰	4.3%
	適正	39.1%
	不足	21.7%
減少した	過剰	0%
	適正	4.3%
	不足	13.0%

回答総数23社

資金繰り、設備投資

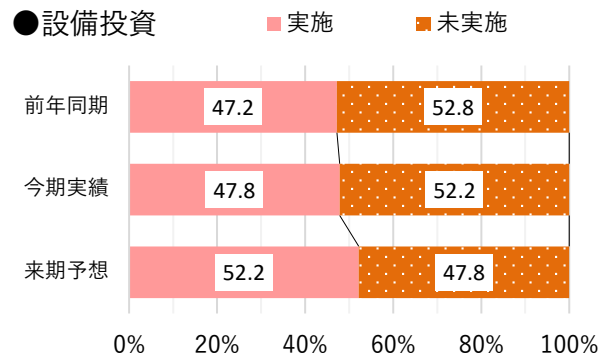
今期の資金繰りDIは▲4.5で、前年同期と比べ6.9ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ9.1ポイント低下すると予想しています。



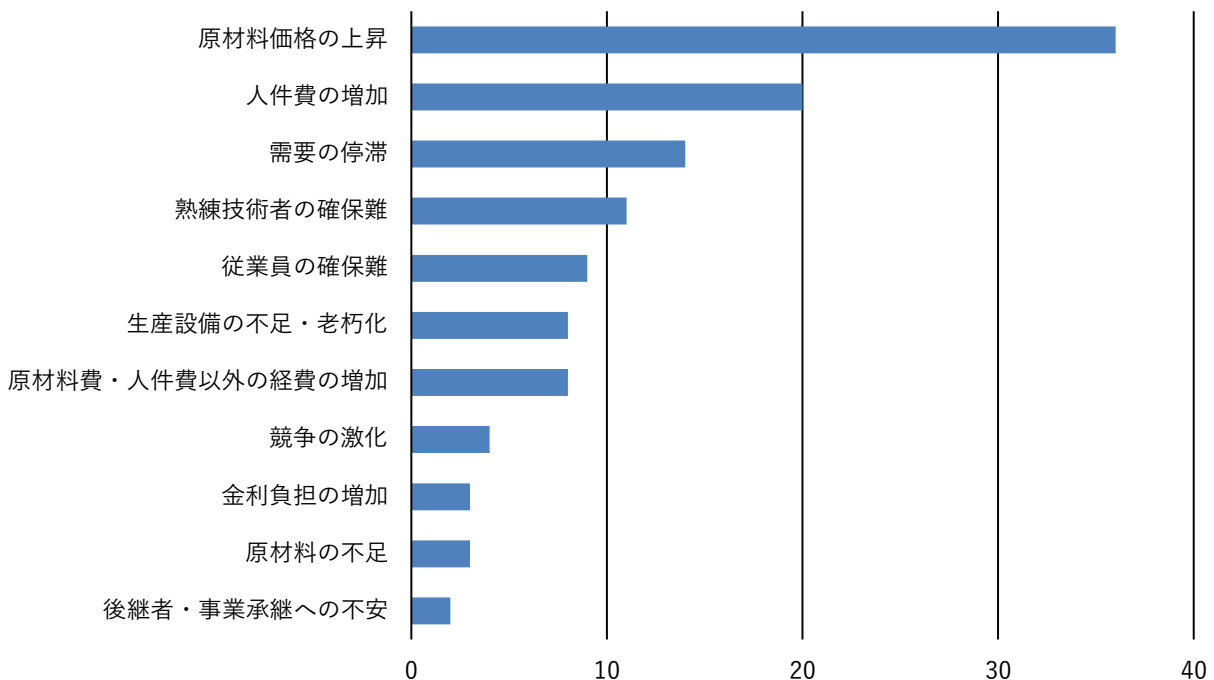
今期の設備投資は47.8%が実施と回答し、前年同期と比べ0.6%上昇しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「車両運搬具」「付帯施設」「OA機器」「福利厚生」（同位）でした。

来期は52.2%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「需要の停滞」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 主原料である水産物の不足と価格の高騰により、採算が悪化した。（食料品）
- 利益確保の整備を進めた。（食料品）
- 人材確保が課題である。（食料品）
- 遅れていた複数の大型プロジェクトが動き出したので、薄日が差してきた。（金属製品）
- 農業と水産が好調ではないが、売値の上昇で売上高に大きな変化はない。物価高騰の影響で売上数量は減少し、仕入価格は上昇傾向にある。人材確保面では退職によって減少した人のを補充はできているが必要人員の確保は難しく、賃金を上げざるを得ない。（プラスチック）
- 受注が減少しており、定時まで工場の稼働が実施できない部門がある。また、新卒採用は決定したが、予定人員には達していない。（プラスチック）

- 仕入価格と賃金の上昇に対し、販売価格への反映が追いついていない。（プラスチック）
- 主要な材料費の高騰と受注件数の減少によって業況が悪化した。（紙製品）
- 防衛省関連の被服類の発注が増加した。（衣服）
- 機械の故障でクリーンルーム用シューズの生産量が減少し、前年同期よりも売上が落ちた。履物事業に大きな変化はないが、直営店事業は当初の見込みよりも利益が芳しくない。（ゴム製品）
- 受注数が増加した。（その他繊維製品）

[来期の業況について]

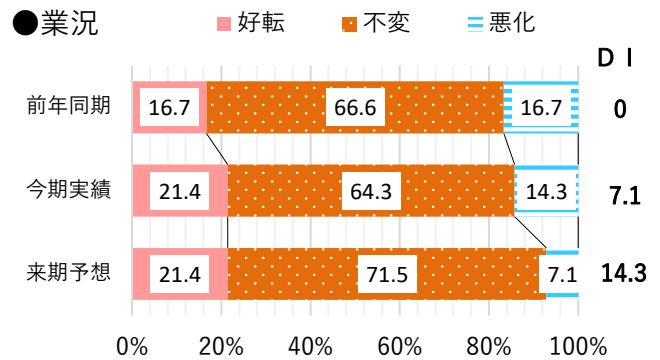
- 原油価格高騰等の影響がどの程度出るのか予想がつかない。（食料品）
- 主原料の水産物の状況が不透明で予想が難しい。（食料品）
- 原材料費の高騰を予想する。（食料品）
- 引き続き人材確保が課題と見込む。（食料品）
- 大型プロジェクトの本格稼働を予想し業況の好転を想定しているが、アメリカ、イスラエルとイランの軍事衝突の影響が懸念材料である。（金属製品）
- 2月時点では今期と大きく変化しないと予想していたが、3月中旬に入り米国によるイラン攻撃の影響で、資材の調達先がフォースマジュール宣言を行った。その結果、5月以降の製造、販売の予想が立たなくなった。（プラスチック）
- 円安とアメリカ、イスラエルのイラン攻撃による原油価格の上昇が重なり、原材料価格は大幅に上昇すると考えられ、得意先への値上交渉も難しいので採算は悪化すると見込む。（プラスチック）
- 世界的な原油高が長期化する見通しで、重油・ガソリン価格の上昇が経費を圧迫している。来期は年間を通じて利益確保が難しい時期にあたるため、より慎重なコスト管理が求められる。
（ゴム製品）
- 受注数の減少と仕入価格の上昇を見込む。原油価格については不透明だが経費増加を予想する。
（その他繊維製品）

卸 売 業

業況、売上、採算

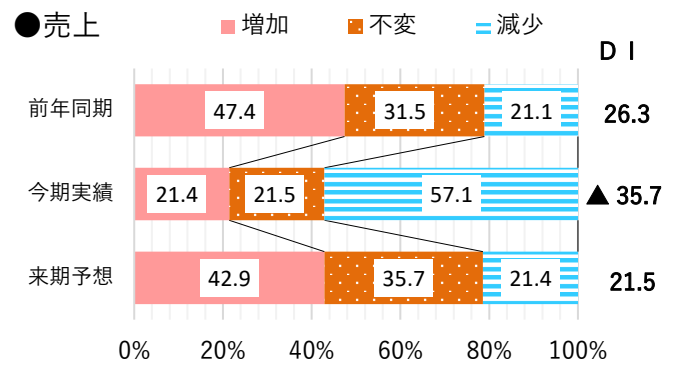
今期（2026.1～3）の業況DIは7.1で、前年同期（2025.1～3）と比べ7.1ポイント上昇しました。

来期（2026.4～6）の業況DIは今期（2026.1～3）と比べ7.2ポイント上昇すると予想しています。



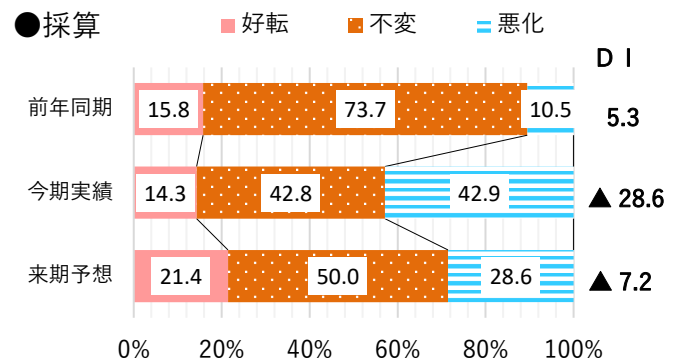
今期の売上DIは▲35.7で、前年同期と比べ62.0ポイントと大幅に低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ57.2ポイント上昇すると予想しています。

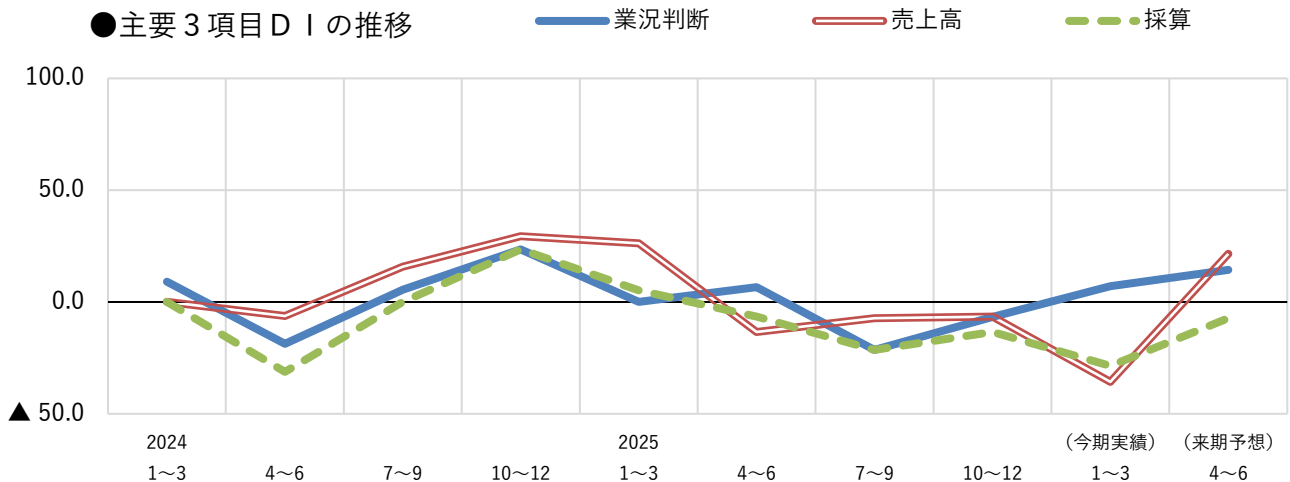


今期の採算DIは▲28.6で、前年同期と比べ33.9ポイントと大幅に低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ21.4ポイント上昇すると予想しています。



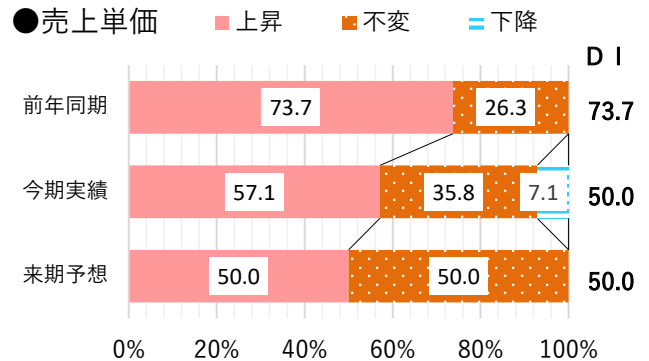
●主要3項目DIの推移



売上単価、商品仕入単価

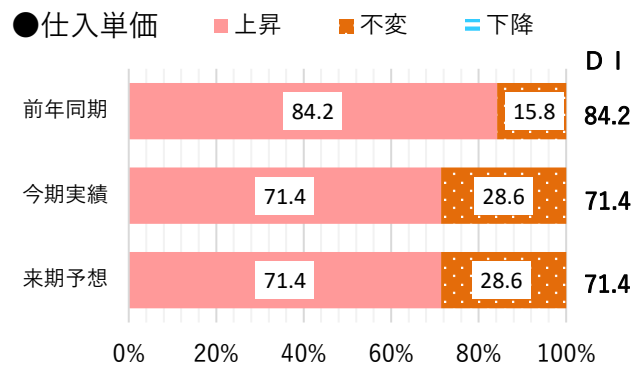
今期の売上単価DIは50.0で、前年同期と比べ23.7ポイント低下しました。

来期の売上単価DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



今期の仕入単価DIは71.4で、前年同期と比べ12.8ポイント低下しました。

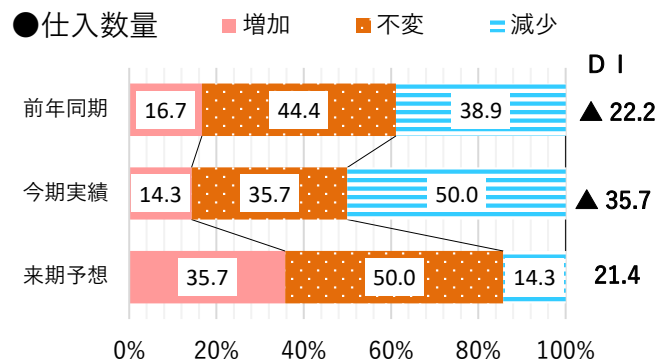
来期の仕入単価DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

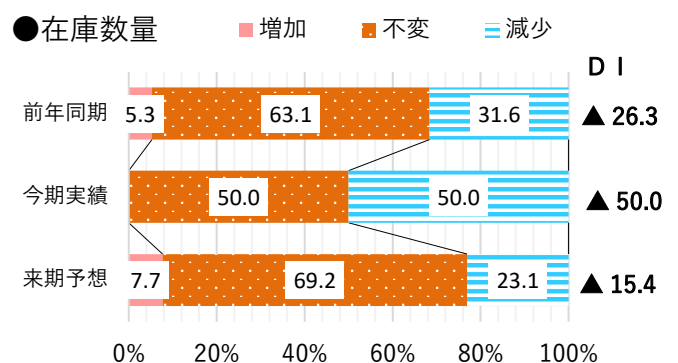
今期の仕入数量DIは▲35.7で、前年同期と比べ13.5ポイント低下しました。

来期の仕入数量DIは今期と比べ57.1ポイント上昇すると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲50.0で、前年同期と比べ23.7ポイント低下しました。

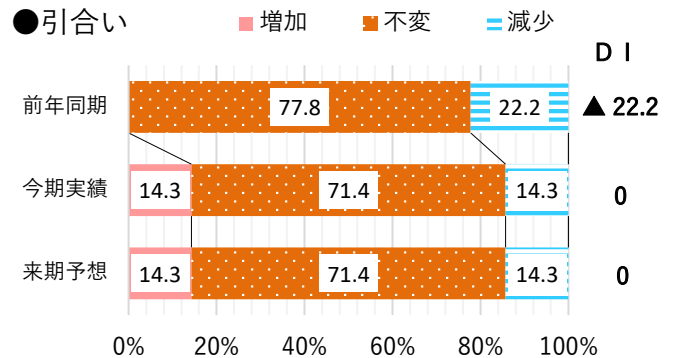
来期の在庫数量DIは今期と比べ34.6ポイント上昇すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは0で、前年同期と比べ22.2ポイント上昇しました。

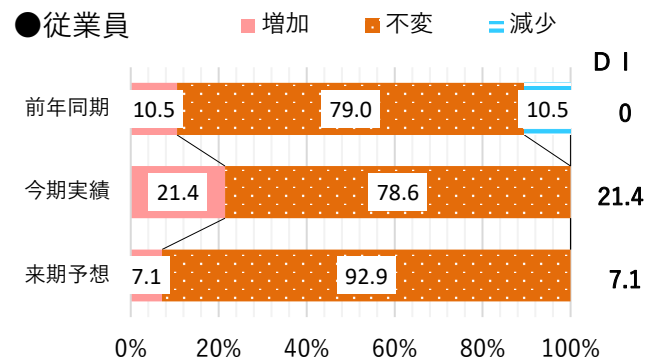
来期の引合いDIは今期と比べ変化なしと予想しています。



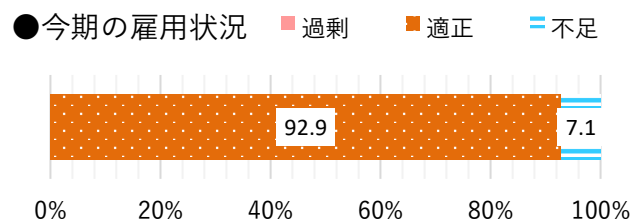
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは21.4で、前年同期と比べ21.4ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは今期と比べ14.3ポイント低下すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は92.9%、不足していると回答した企業の割合は7.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、71.4%を占めました。

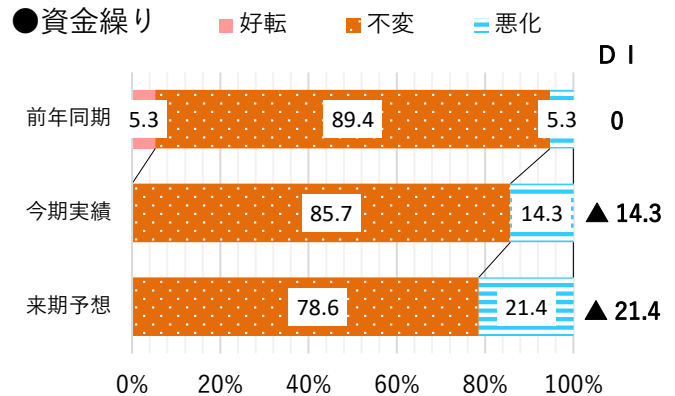
従業員数変化	雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	21.4%
	不足	0%
不変だった	過剰	0%
	適正	71.4%
	不足	7.1%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	0%

※回答総数14社

資金繰り、設備投資

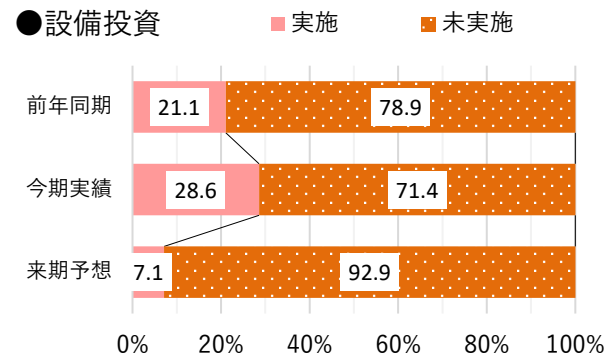
今期の資金繰りDIは▲14.3で、前年同期と比べ14.3ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ7.1ポイント低下すると予想しています。



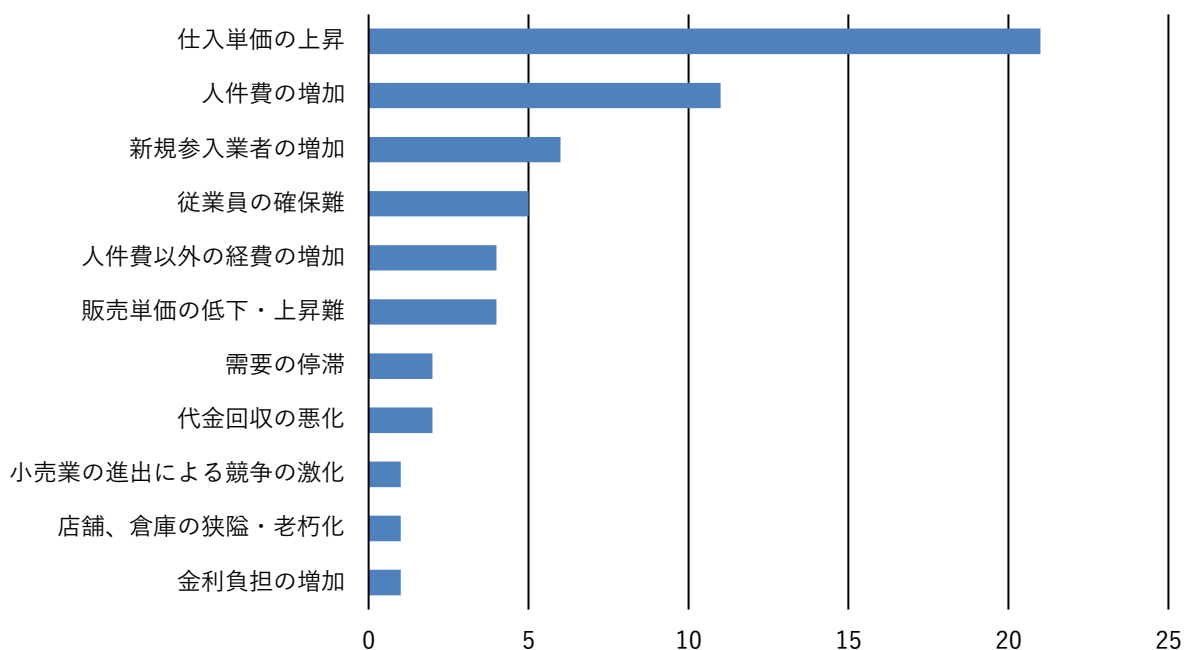
今期の設備投資は28.6%が実施と回答し、前年同期と比べ7.5%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「店舗」「OA機器」（同位）でした。

来期は7.1%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「新規参入業者の増加」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 大阪万博の開催や熊による被害、数回の大寒波の影響で売上が大幅に減少した。（食料・飲料）
- 泊発電所建設工事の増加と新幹線工事関連の需要がピークに達したことで、業況が好転した。（建築材料）
- 例年と変わらない。（事務用品）
- 仕入単価の上昇分を売上に転嫁できず、人件費と一般経費は上昇しているので苦戦している。
（鉱物・金属材料）

[来期の業況について]

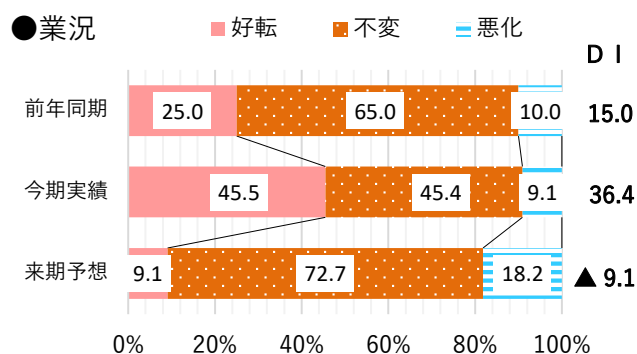
- 新幹線工事の需要がピークを過ぎると予想する。（建築材料）
- 4月からは価格改正や給料、仕入価格、燃料費などいずれも上昇するので採算の悪化を見込む。
（自動車部品）
- 4月からメーカーの値上げが多くすべてを価格転嫁できない。（包装資材）
- 例年と変わらないと予想する。（事務用品）
- 売上単価の上昇に比例して売上数量が減少を予想しているが、利益確保も必要なので負のスパイラルが続くと見込む。（鉱物・金属材料）
- 石油価格の動向がイラク問題で見通しが立たない。（石油卸売）

小 売 業

業況、売上、採算

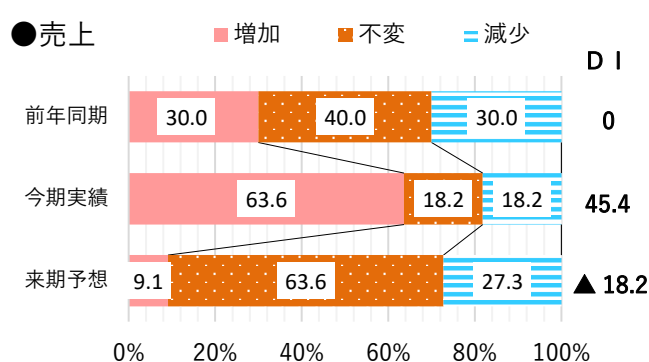
今期（2026.1～3）の業況DIは36.4で、前年同期（2025.1～3）と比べ21.4ポイント上昇しました。

来期（2026.4～6）の業況DIは今期（2026.1～3）と比べ45.5ポイント低下すると予想しています。



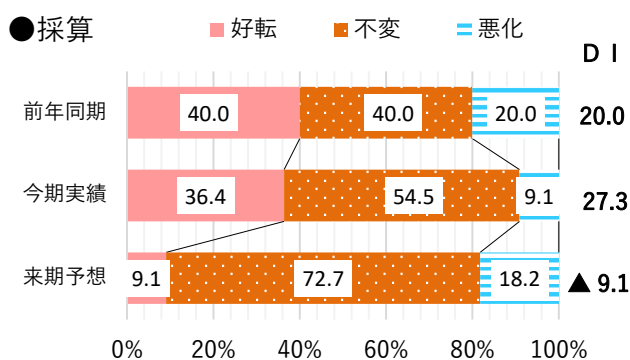
今期の売上DIは45.4で、前年同期と比べ45.4ポイントと大幅に上昇しました。

来期の売上DIは今期と比べ63.6ポイント低下すると予想しています。

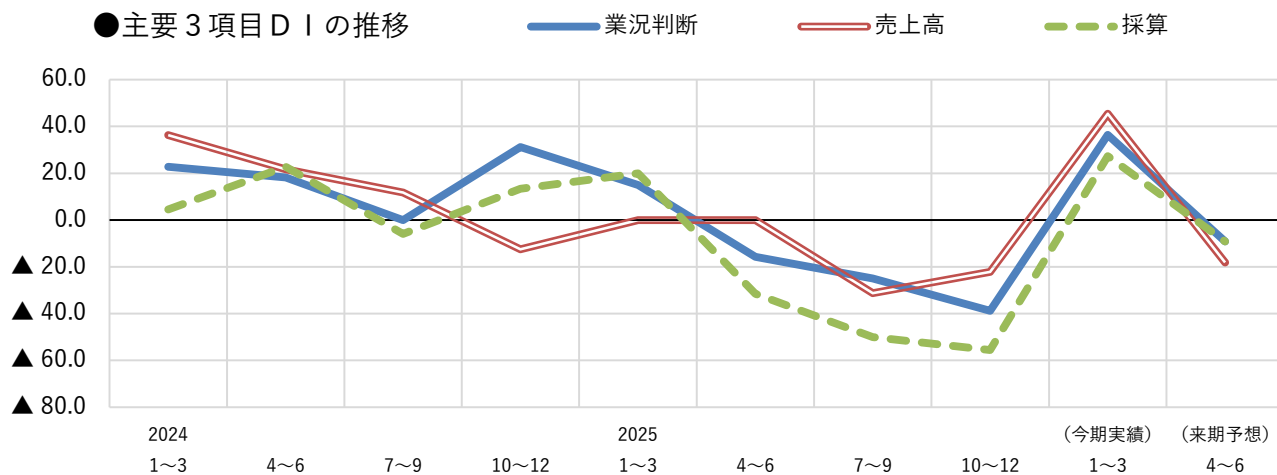


今期の採算DIは27.3で、前年同期と比べ7.3ポイント上昇しました。

来期の採算DIは今期と比べ36.4ポイント低下すると予想しています。



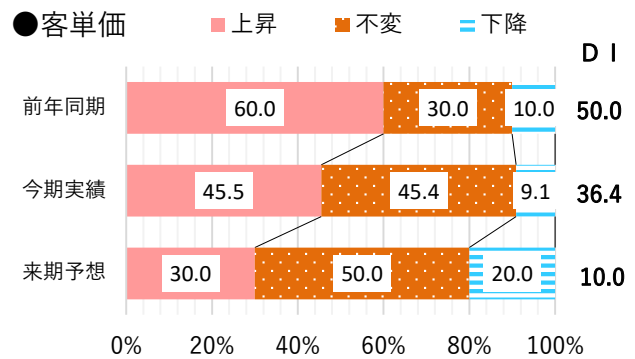
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

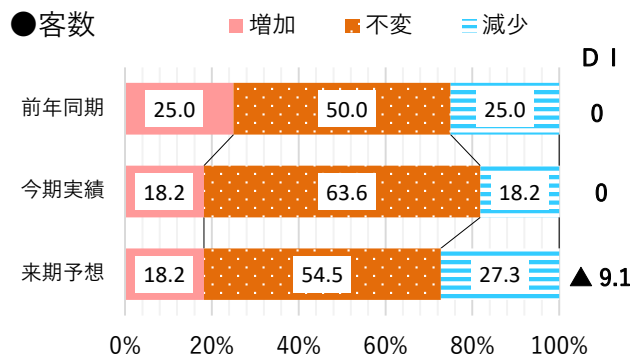
今期の客単価DIは36.4で、前年同期と比べ13.6ポイント低下しました。

来期の客単価DIは今期と比べ26.4ポイント低下すると予想しています。



今期の客数DIは0で、前年同期と比べ変化なしとなりました。

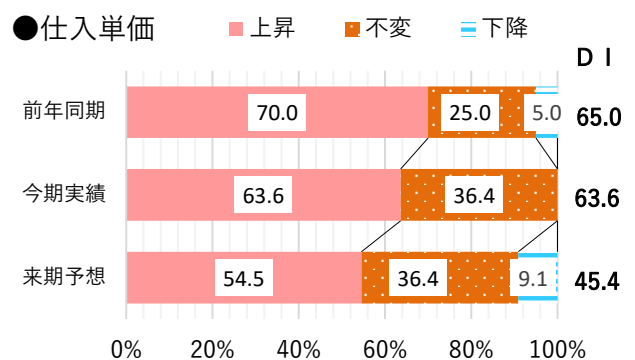
来期の客数DIは今期と比べ9.1ポイント低下すると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

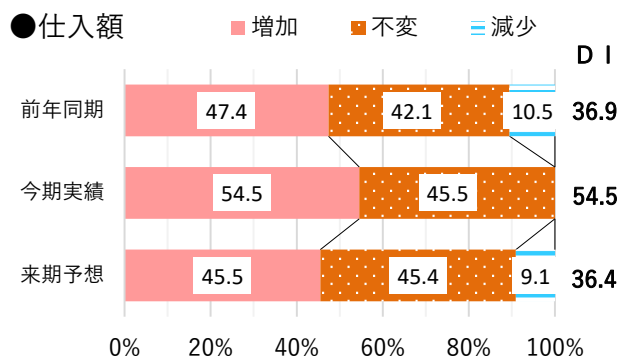
今期の仕入単価DIは63.6で、前年同期と比べ1.4ポイント低下しました。

来期の仕入単価DIは今期と比べ18.2ポイント低下すると予想しています。

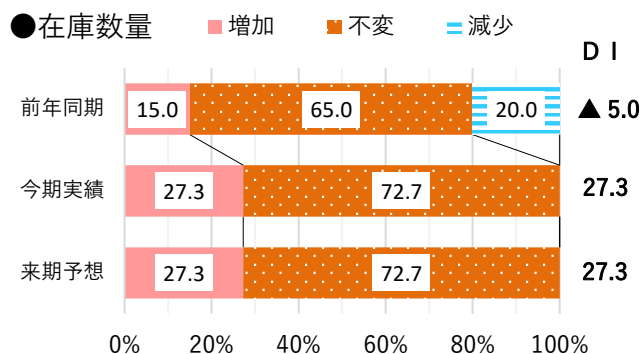


今期の仕入額DIは54.5で、前年同期と比べ17.6ポイント上昇しました。

来期の仕入額DIは今期と比べ18.1ポイント低下すると予想しています。

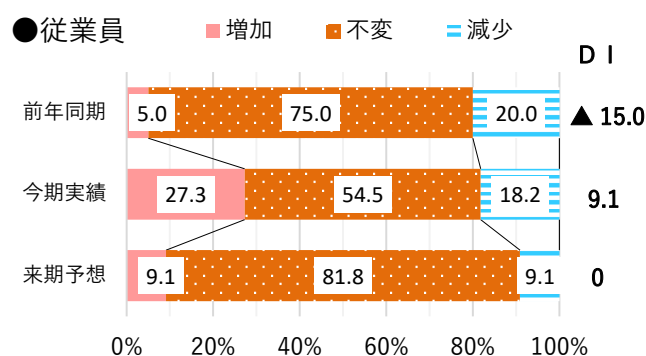


今期の在庫数量DIは27.3で、前年同期と比べ32.3ポイントと大幅に上昇しました。
来期の在庫数量DIは今期と比べ変化なしと予想しています。

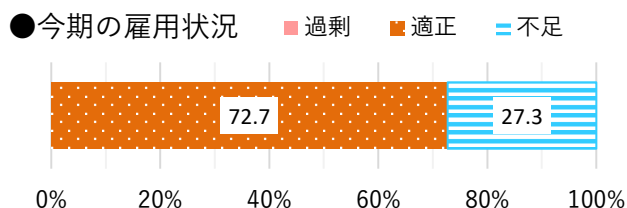


従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは9.1で、前年同期と比べ24.1ポイント上昇しました。
来期の従業員DIは今期と比べ9.1ポイント低下すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は72.7%、不足していると回答した企業の割合は27.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、36.4%を占めました。

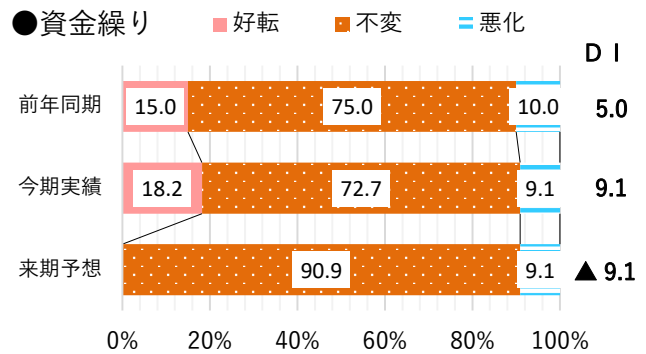
従業員数変化	雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	27.3%
	不足	0%
不変だった	過剰	0%
	適正	36.4%
	不足	18.2%
減少した	過剰	0%
	適正	9.1%
	不足	9.1%

※回答総数11社

資金繰り、設備投資

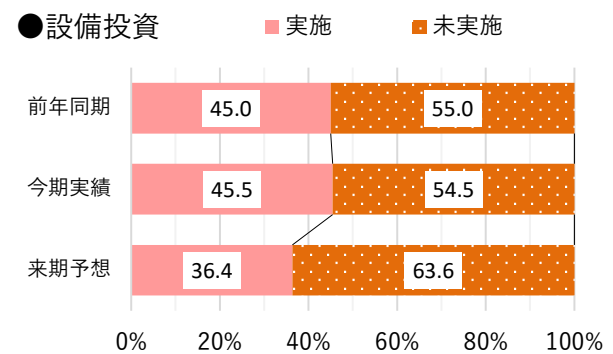
今期の資金繰りDIは9.1で、前年同期と比べ4.1ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ18.2ポイント低下すると予想しています。



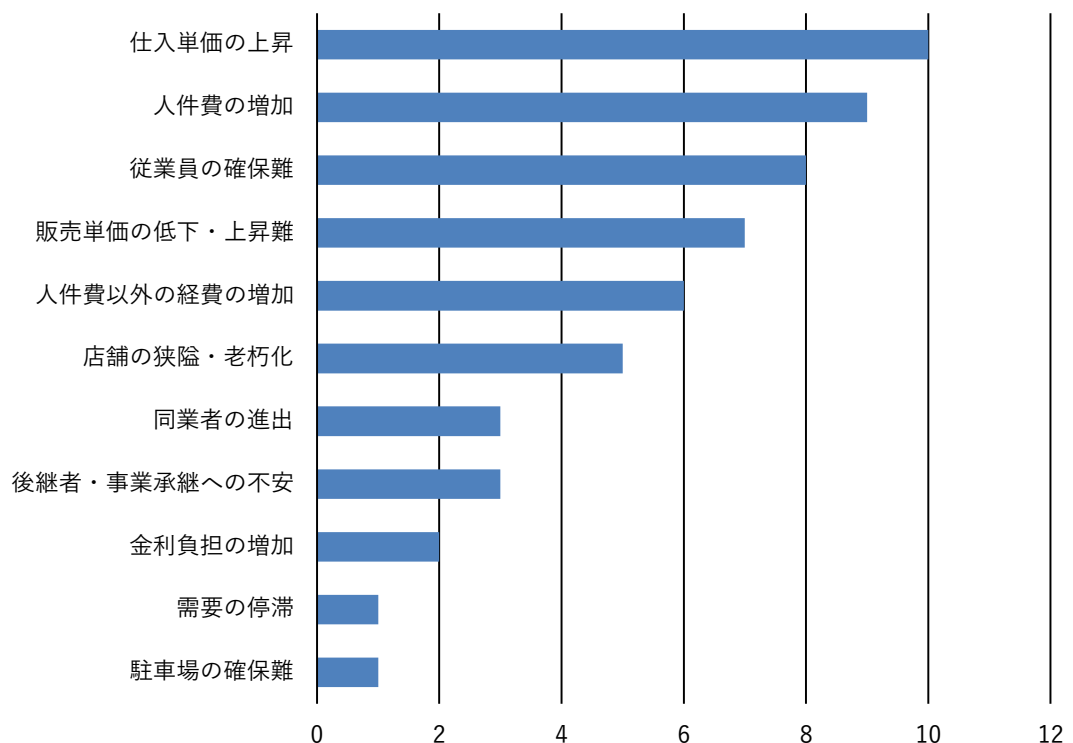
今期の設備投資は45.5%が実施と回答し、前年同期と比べ0.5%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「店舗」でした。

来期は36.4%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 売上と客数はともに微増した。時給を前期より上昇させたが、人材は減少傾向にある。
(ホームセンター)
- 客単価の大幅な上昇で基本的な粗利益が少し好転し、価格競争も少なかった。(食料品小売)
- 人口の減少により客数、売上ともに減少していると思われる。(コンビニ)
- 原材料価格の上昇と悪天候による来店数の減少が見られた。(菓子製造小売)
- 利用客数が増加傾向にあり、2名の有資格者の入社も決定した。(自動車小売)
- 紹介者が増加したので売上も増加した。(自動車小売)
- 売上が昨年度と比較して微増した。(時計小売)

[来期の業況について]

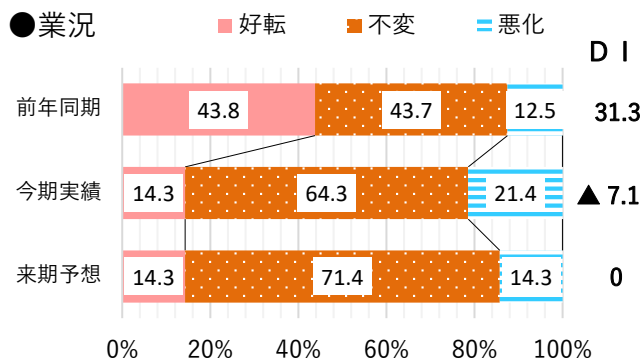
- 季節商品に左右されるが概ね前期同様の数字になると予想する。(ホームセンター)
- 客単価が下がり、価格競争の活性化で利幅が圧迫されると見込む。(食料品小売)
- 物品のさらなる価格上昇の見積もりが増えている。(菓子製造小売)
- 事業構造の改革により、人件費の上昇がありながらも収益は増加傾向と予想する。(自動車小売)
- 今期はとても好調だったので来期の売上は減少する見込みである。(自動車小売)
- 仕入額の上昇はあるが、売上は例年通りを見込む。(時計小売)

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

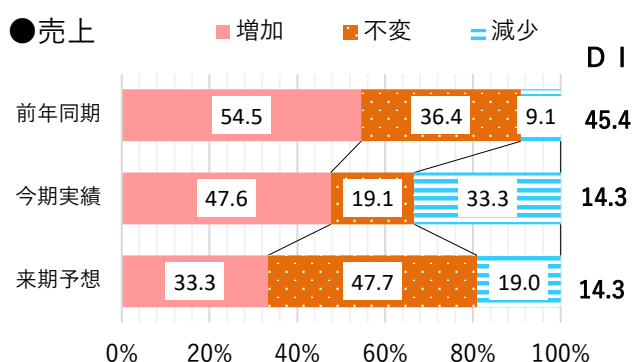
今期（2026.1～3）の業況DIは▲7.1で、前年同期（2025.1～3）と比べ38.4ポイントと大幅に低下しました。

来期（2026.4～6）の業況DIは今期（2026.1～3）と比べ7.1ポイント上昇すると予想しています。



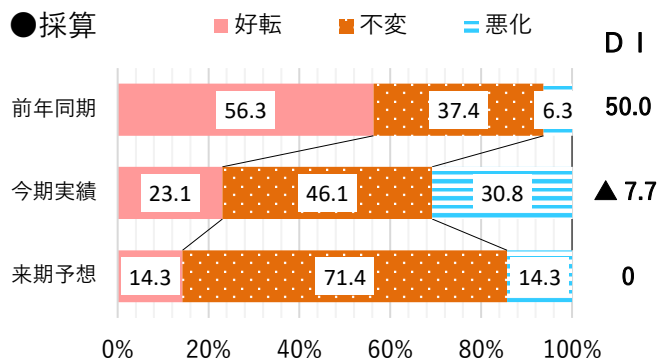
今期の売上高DIは14.3で、前年同期と比べ31.1ポイントと大幅に低下しました。

来期の売上高DIは今期と比べ変化なしと予想しています。

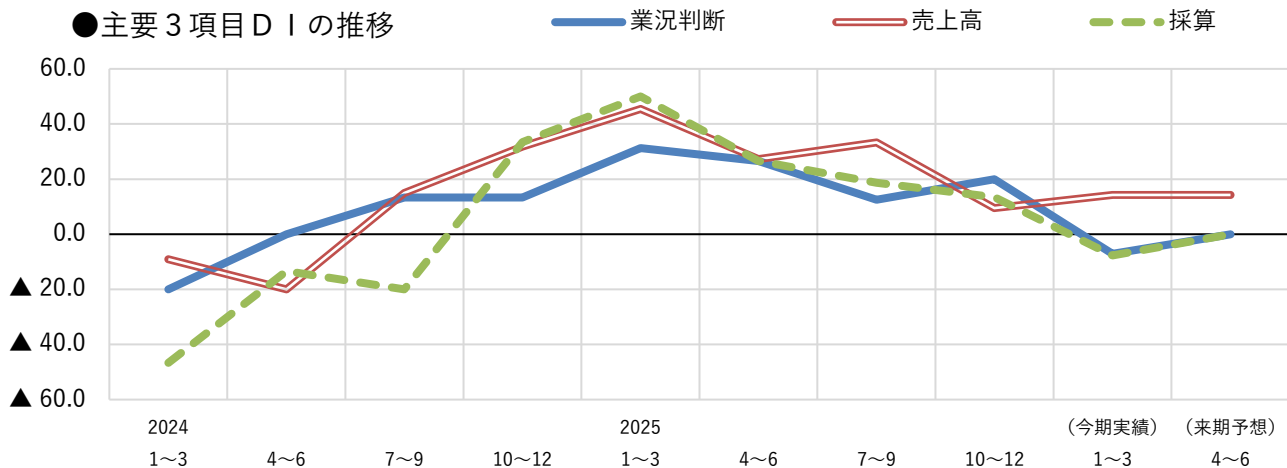


今期の採算DIは▲7.7で、前年同期と比べ57.7ポイントと大幅に低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ7.7ポイント上昇すると予想しています。



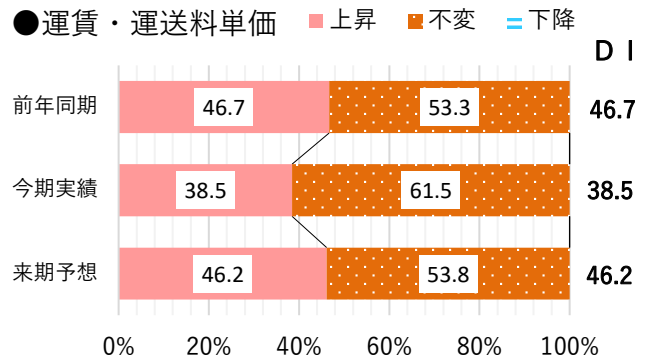
●主要3項目DIの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

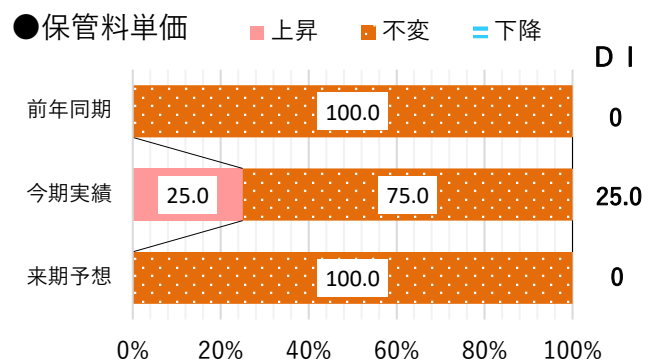
今期の運賃・運送料単価DIは38.5で、前年同期と比べ8.2ポイント低下しました。

来期の運賃・運送料単価DIは今期と比べ7.7ポイント上昇すると予想しています。



今期の保管料単価DIは25.0で、前年同期と比べ25.0ポイント上昇しました。

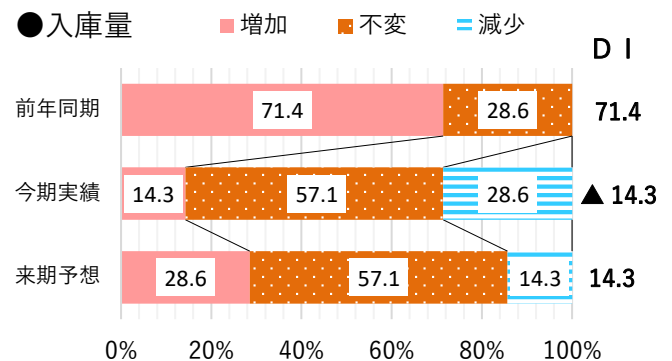
来期の保管料単価DIは今期と比べ25.0ポイント低下すると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

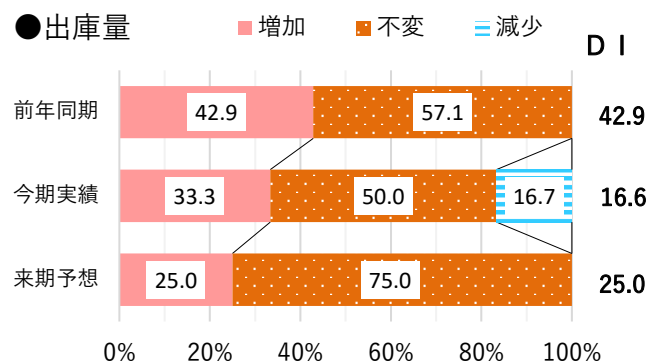
今期の入庫量DIは▲14.3で、前年同期と比べ85.7ポイントと大幅に低下しました。

来期の入庫量DIは今期と比べ28.6ポイント上昇すると予想しています。



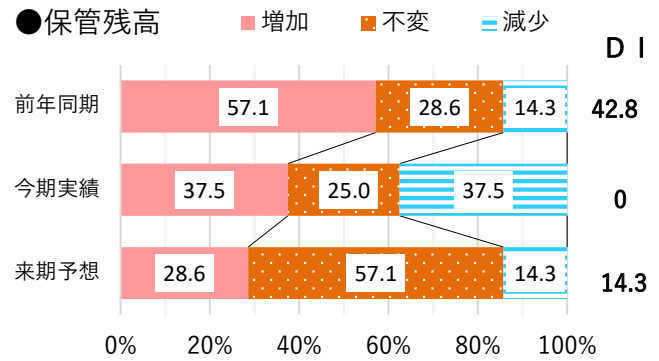
今期の出庫量DIは16.6で、前年同期と比べ26.3ポイント低下しました。

来期の出庫量DIは今期と比べ8.4ポイント上昇すると予想しています。



今期の保管残高DIは0で、前年同期と比べ42.8ポイントと大幅に低下しました。

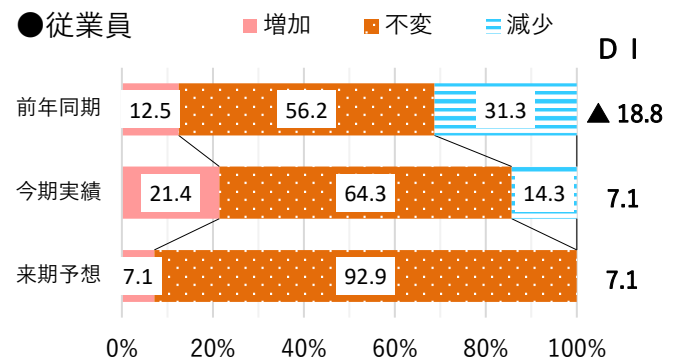
来期の保管残高DIは今期と比べ14.3ポイント上昇すると予想しています。



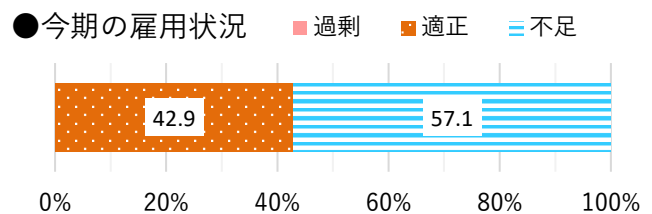
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは7.1で、前年同期と比べ25.9ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は42.9%、不足していると回答した企業の割合は57.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足である」という回答で、35.7%を占めました。

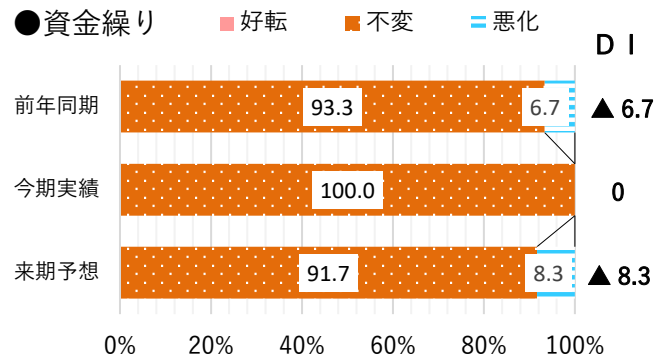
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	14.3%
	不足	7.1%
不変だった	過剰	0%
	適正	28.6%
	不足	35.7%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	14.3%

※回答総数14社

資金繰り、設備投資

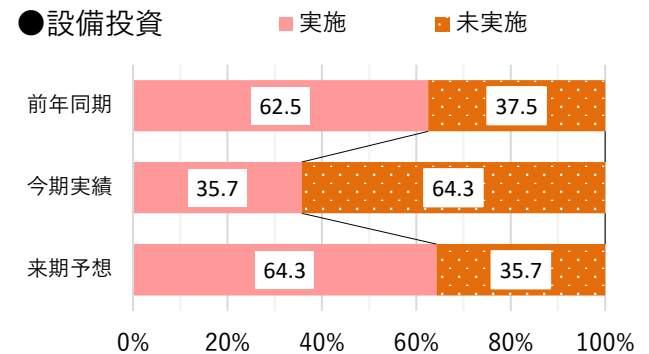
今期の資金繰りDIは0で、前年同期と比べ6.7ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ8.3ポイント低下すると予想しています。



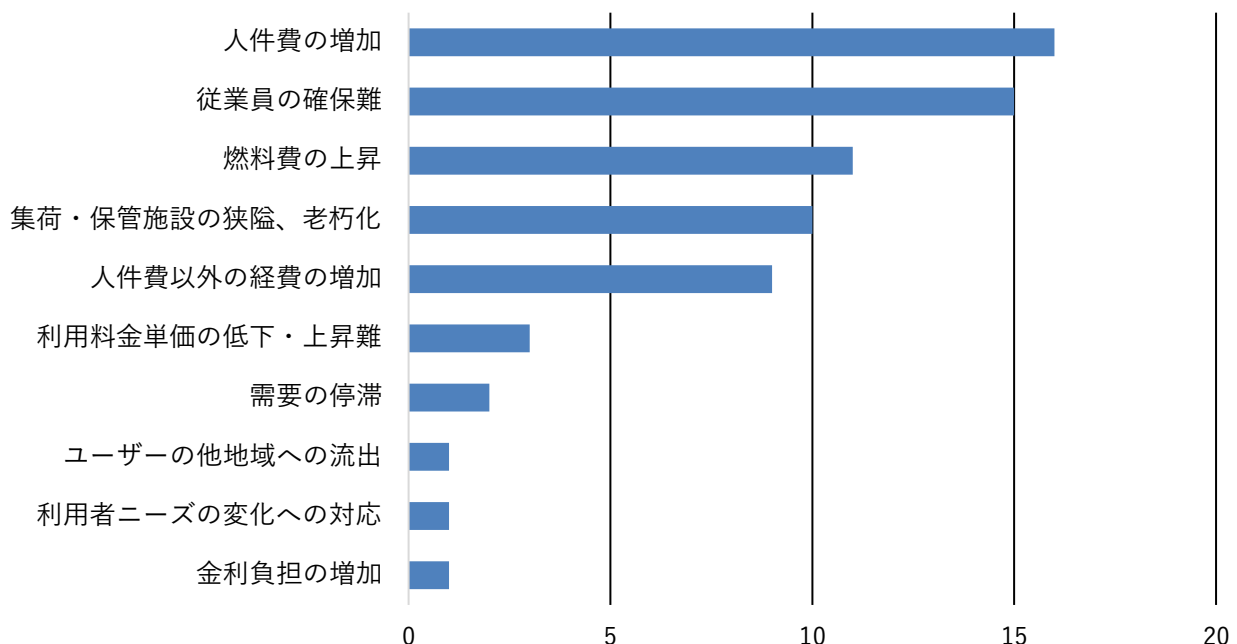
今期の設備投資は35.7%が実施と回答し、前年同期と比べ26.8%低下しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「集荷・保管施設」でした。

来期は64.3%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「人件費の増加」、2位が「従業員の確保難」、3位が「燃料の上昇」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 運送料単価は上がっているが利用状況が低迷している。(道路旅客運送)
- 人材不足が課題である。(道路旅客運送)
- 前年同期と比べて売上額が増加した。(道路貨物運送)
- 輸送量が若干落ちた。(道路貨物運送)
- 売上や業務単価に変動はないが、人件費などのコストが上昇し減益となった。(港湾運送)
- フェリー旅客部門はここ数年の国内旅行需要が後押しして好調だが、天候不順による農産物の生育の悪化などで貨物部門は低調に推移している。小樽市内の学生確保には苦戦しており、毎年の採用計画が難航している。(水運)
- 売上額の減少については、前年同期が好調だったので比較して減少としたが大幅な落ち込みではない。
(倉庫)
- 出庫量の増加により売上額が減少した。(倉庫業)

[来期の業況について]

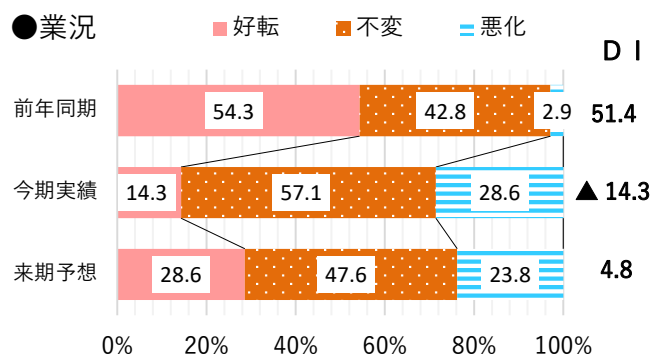
- 経済環境の好転に期待する。(道路旅客運送)
- 人材の確保が困難。(道路旅客運送)
- 燃料の高騰を危惧している。(道路貨物運送)
- 売上額は不変と見込む。(道路貨物運送)
- 物価の高騰や人件費の上昇に見合う価格改定や新規受注の確保が不透明である。(港湾運送)
- 今期と同じ状況が続くと想定しているが、イラン爆撃の影響による燃油の高騰を危惧している。(水運)
- 入庫量の減少が予想され、業況の悪化が懸念される。(倉庫業)

観光業

業況、売上、採算

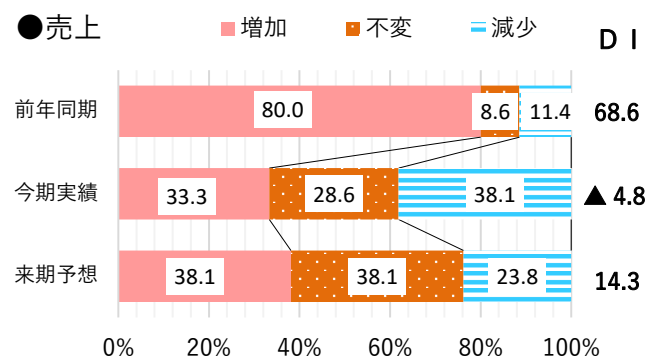
今期（2026.1～3）の業況DIは▲14.3で、前年同期（2025.1～3）と比べ65.7ポイントと大幅に低下しました。

来期（2026.4～6）の業況DIは今期（2026.1～3）と比べ19.1ポイント上昇すると予想しています。



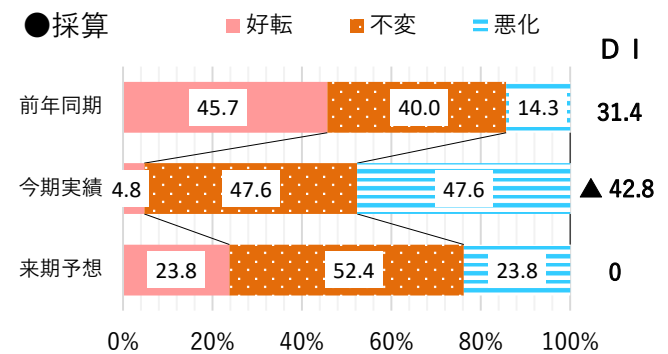
今期の売上DIは▲4.8で、前年同期と比べ73.4ポイントと大幅に低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ19.1ポイント上昇すると予想しています。

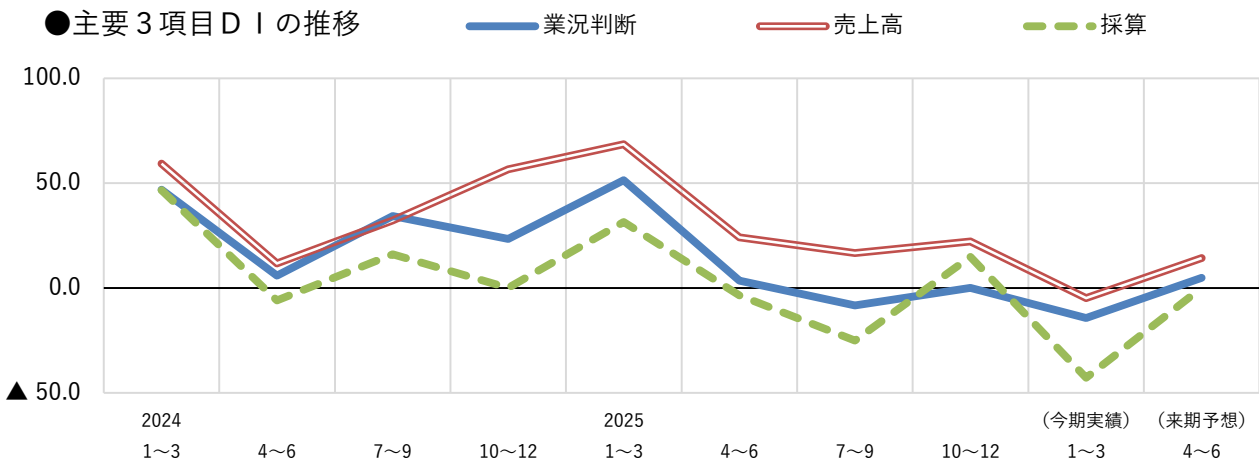


今期の採算DIは▲42.8で、前年同期と比べ74.2ポイントと大幅に低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ42.8ポイント上昇すると予想しています。



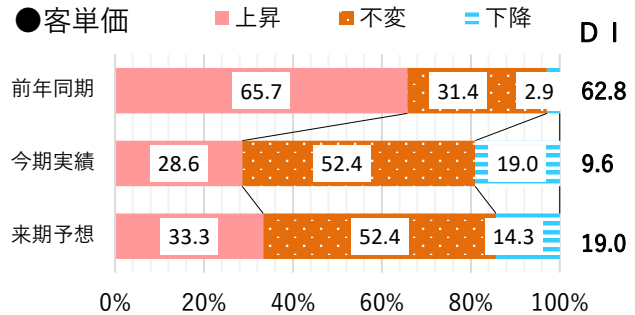
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

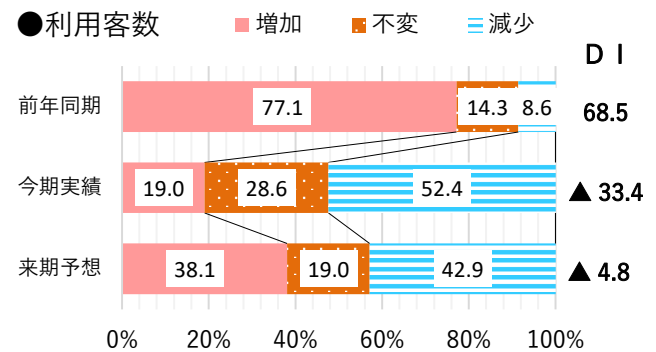
今期の客単価DIは9.6で、前年同期と比べ53.2ポイントと大幅に低下しました。

来期の客単価DIは今期と比べ9.4ポイント上昇すると予想しています。



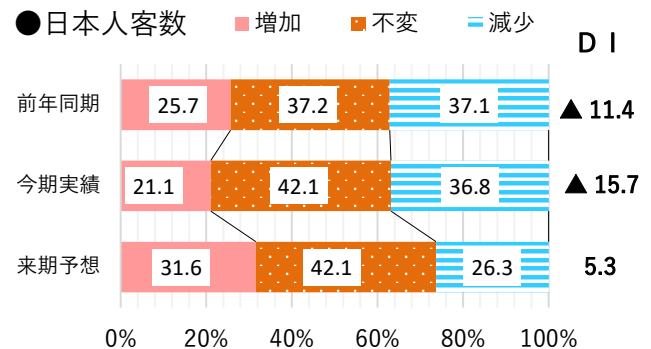
今期の利用客数DIは▲33.4で、前年同期と比べ101.9ポイントと大幅に低下しました。

来期の利用客数DIは今期と比べ28.6ポイント上昇すると予想しています。



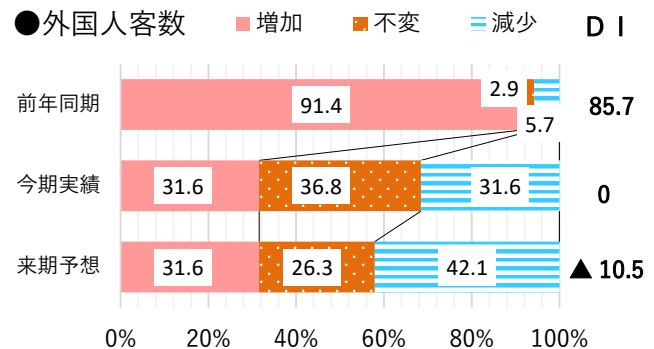
今期の日本人客数DIは▲15.7で、前年同期と比べ4.3ポイント低下しました。

来期の日本人客数DIは今期と比べ21.0ポイント上昇すると予想しています。



今期の外国人客数DIは0で、前年同期と比べ85.7ポイントと大幅に低下しました。

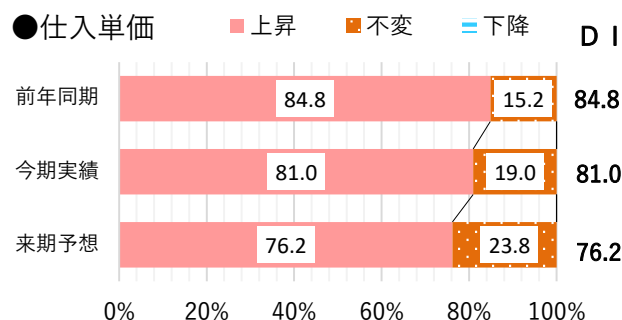
来期の外国人客数DIは今期と比べ10.5ポイント低下すると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは81.0で、前年同期と比べ3.8ポイント低下しました。

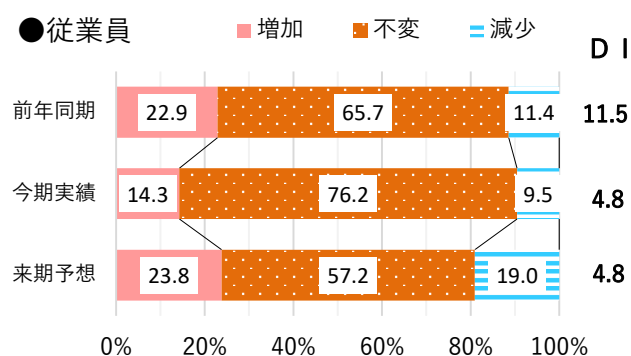
来期の仕入単価DIは今期と比べ4.8ポイント低下すると予想しています。



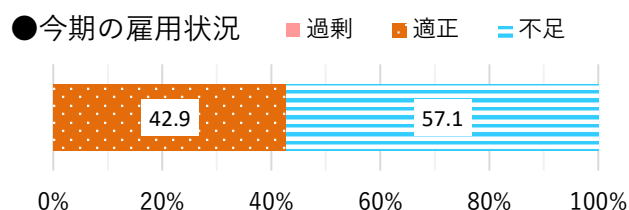
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは4.8で、前年同期と比べ6.7ポイント低下しました。

来期の従業員DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は42.9%、不足していると回答した企業の割合は57.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足である」という回答で、42.9%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	9.5%
	不足	4.8%
不変だった	過剰	0%
	適正	33.3%
	不足	42.9%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	9.5%

※回答総数21社

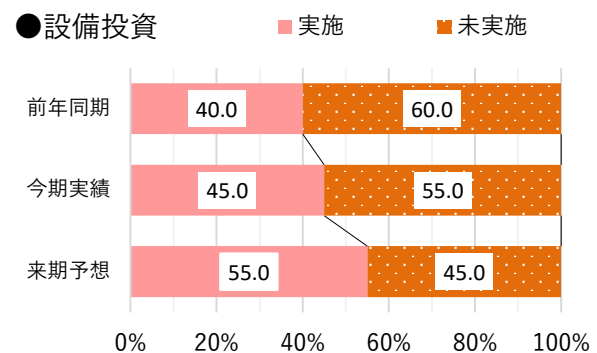
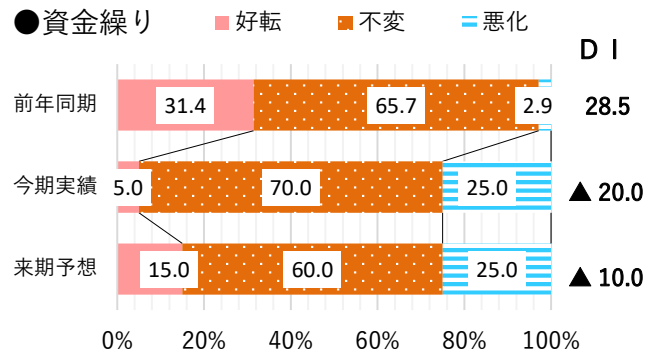
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲20.0で、前年同期と比べ48.5ポイントと大幅に低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ10.0ポイント上昇すると予想しています。

今期の設備投資は45.0%が実施と回答し、前年同期と比べ5.0%上昇しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、2位が「車両運搬具」「OA機器」（同位）でした。

来期は55.0%が設備投資を計画していると回答しています。

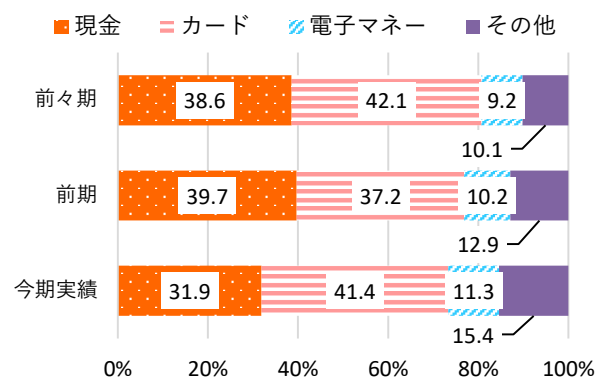


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位がカードで41.4%、2位が現金で31.9%、3位がその他以15.4%、4位が電子マネーで11.3%となりました。

その他以挙げられた決済方法は、売掛請求、掛け売り、クーポン、卸売の利用です。

●今期利用客の決済方法(%)

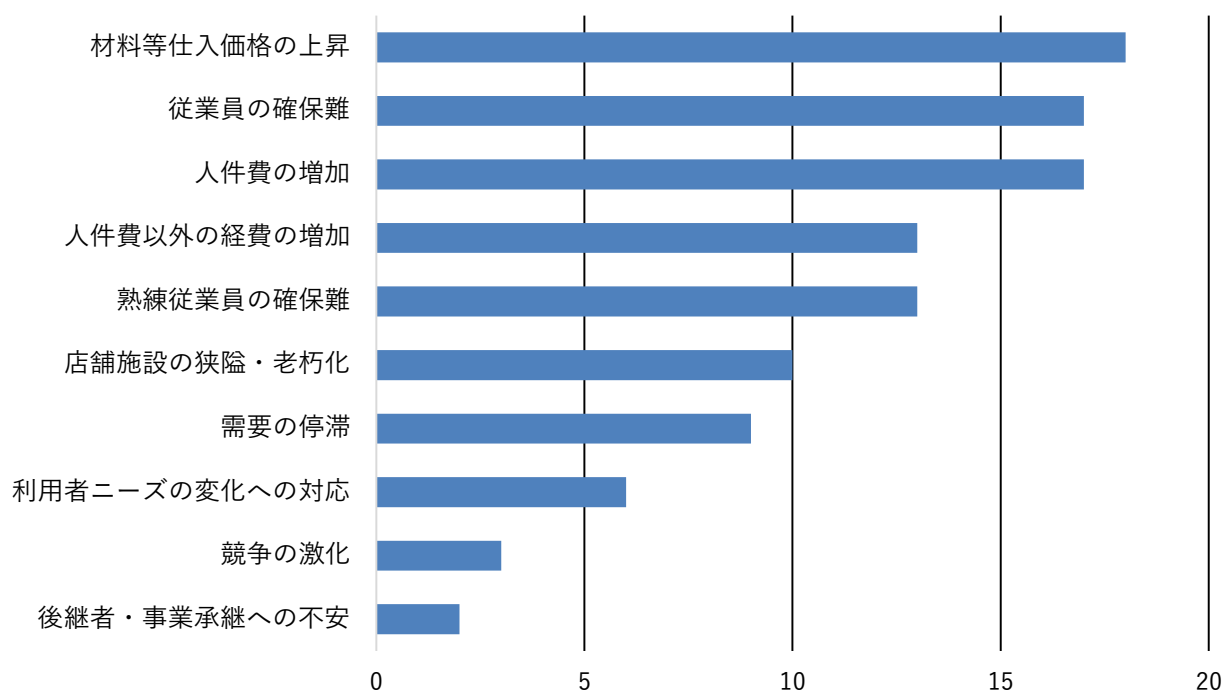


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は90.2%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」「人件費の増加」（同位）の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- インバウンド客の増加と対照的に国内の客が減少しており、国の景気の悪さを感じている。（飲食）
- 冬のイベントやスキー客で海外のお客様が増加した。（飲食）
- 外国人観光客の来店数と購入は堅調で、主に東アジアからの観光客だった。日本人客は、国内景気が影響しているのか来店数と購入意欲の減少が顕著であった。主原料が高騰しているので、製造原価の上昇はやむを得ないが、価格転嫁が上手く進められなく、採算の悪化が止まらない。また、人手不足が解消する気配は無く、企業間での人材の奪い合いになっており、賃金の上昇と労働の質の低下を招いている。（土産品）
- 前年同時期がオーバーツーリズム状態だったことを差し引いても売上が落ち込んだ。（土産品）
- 悪天候での外出自粛やインバウンドの減少が業況の悪化に繋がった。（土産品）
- 従業員数が減少し、人材確保に苦労している。（土産品）
- 仕入価格が上昇した。（土産品）
- 業況に変化はない。（土産品）
- 前年同期と比較して、売上と利用客数はどちらも2割程度増加している。（水運業）
- 大雪の影響で売上が増加した。（レンタカー）
- インバウンドの動向が好転し、売上も増加した。（ホテル）
- 光熱費と清掃などの外注費の高騰が厳しい。（ホテル）
- オフシーズンなので大きな変動はなく業況は不変とした。（娯楽業）

[来期の業況について]

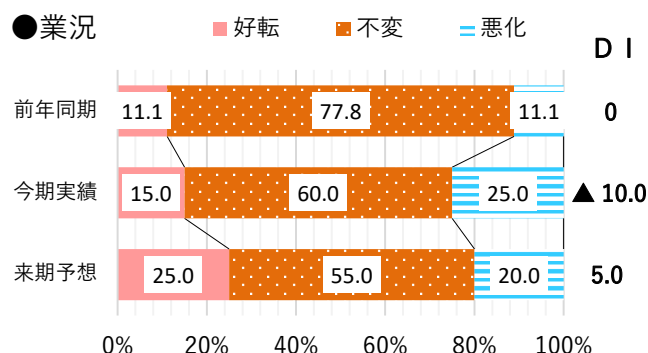
- 海外からの利用客が減少し、国内の利用客が増加すると予想する。（飲食）
- 中東情勢の影響で原油価格が上昇し、旅費の高騰で外国人、日本人観光客の減少を危惧している。物価の上昇により、製造原価と販管費が増加し、売上の減少と採算の悪化を予想している。また、不景気で人手不足が落ち着くと思われるが、引き続き外国人の採用活動を強化していく。（土産品）
- 国内の観光客数もそれほど多くはないので依然苦戦することを予想する。（土産品）
- 引き続き人材確保の苦労と仕入価格の上昇を見込む。（土産品）
- 香港などのインバウンド客が減少すると見込む。（レンタカー）
- 今期は最も閑散期にあたるので、来期は、売上と利用客のどちらも増加を見込む。（水運業）
- 収益は前年並と予測しているが、償却費の減少により経常利益は好転する見通しのため業況は好転と見込む。（娯楽業）

サービス業

業況、売上、採算

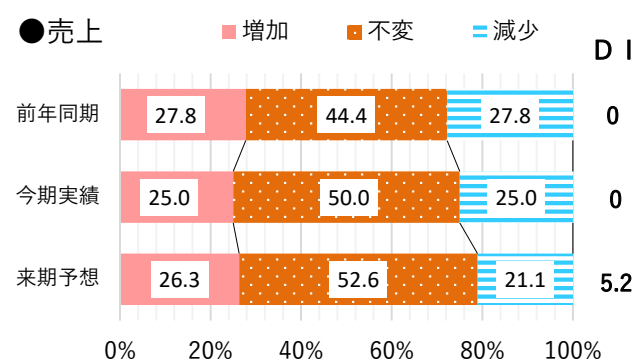
今期（2026.1～3）の業況DIは▲10.0で、前年同期（2025.1～3）と比べ10.0ポイント低下しました。

来期（2026.4～6）の業況DIは今期（2026.1～3）と比べ15.0ポイント上昇すると予想しています。



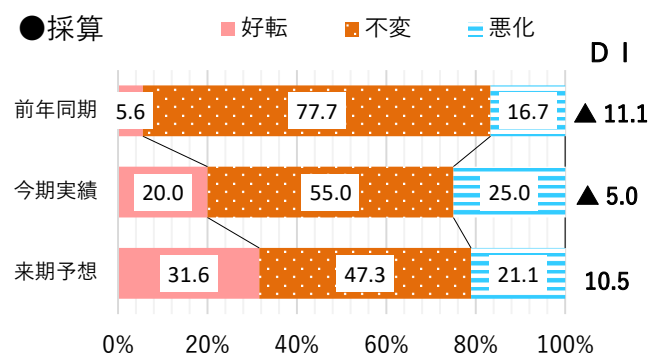
今期の売上DIは0で、前年同期と比べ変化なしとなりました。

来期の売上DIは今期と比べ5.2ポイント上昇すると予想しています。

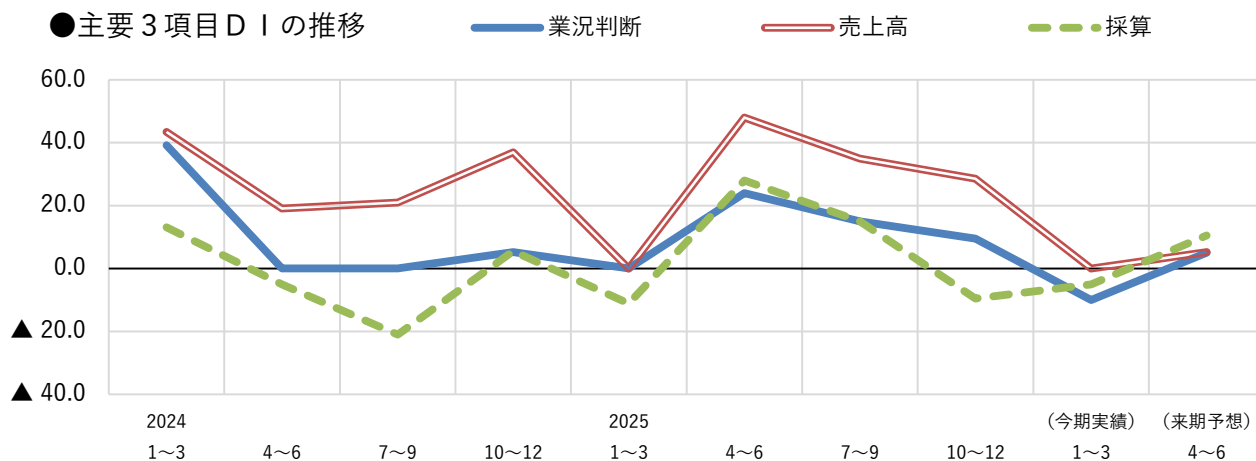


今期の採算DIは▲5.0で、前年同期と比べ6.1ポイント上昇しました。

来期の採算DIは今期と比べ15.5ポイント上昇すると予想しています。



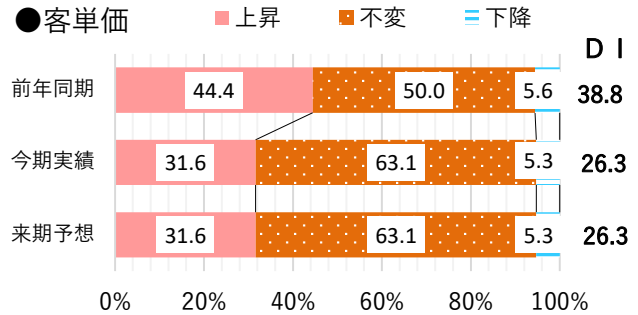
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、仕入単価

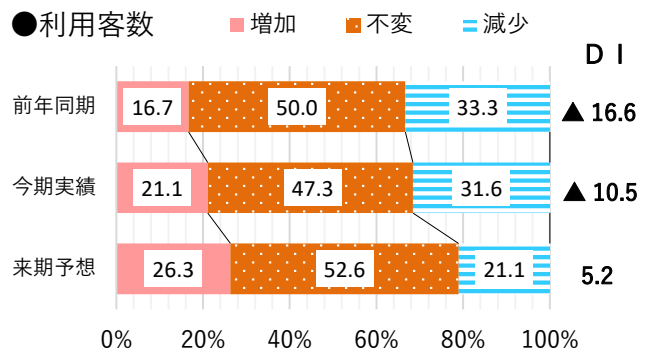
今期の客単価DIは26.3で、前年同期と比べ12.5ポイント低下しました。

来期の客単価DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



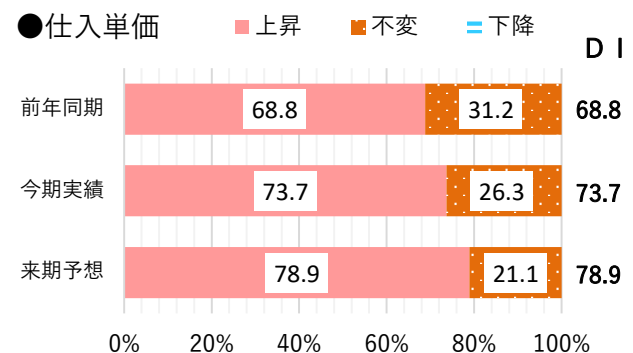
今期の利用客数DIは▲10.5で、前年同期と比べ6.1ポイント上昇しました。

来期の利用客数DIは今期と比べ15.7ポイント上昇すると予想しています。



今期の仕入単価DIは73.7で、前年同期と比べ4.9ポイント上昇しました。

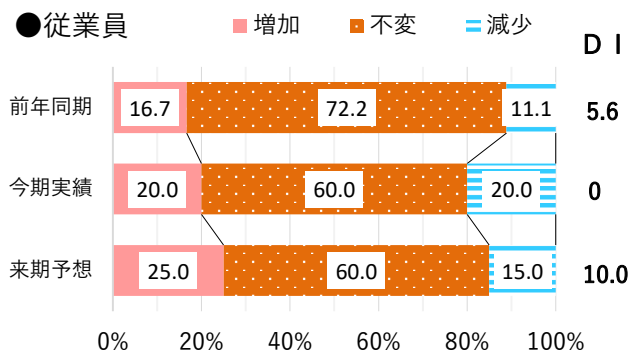
来期の仕入単価DIは今期と比べ5.2ポイント上昇すると予想しています。



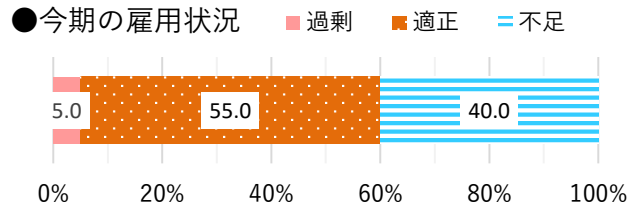
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0で、前年同期と比べ5.6ポイント低下しました。

来期の従業員DIは今期と比べ10.0ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は5.0%、適正であると回答した企業の割合は55.0%、不足していると回答した企業の割合は40.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、35.0%を占めました。

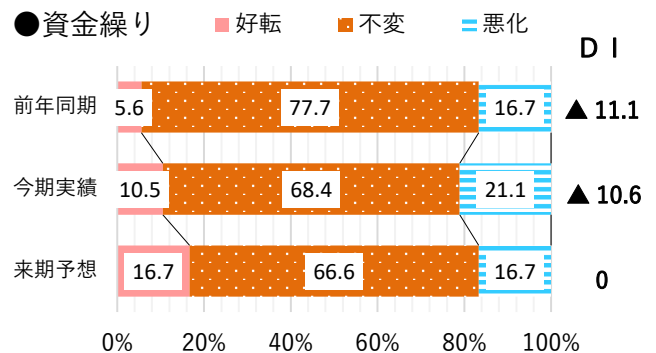
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	15.0%
	不足	5.0%
不変だった	過剰	5.0%
	適正	35.0%
	不足	20.0%
減少した	過剰	0%
	適正	5.0%
	不足	15.0%

※回答総数20社

資金繰り、設備投資

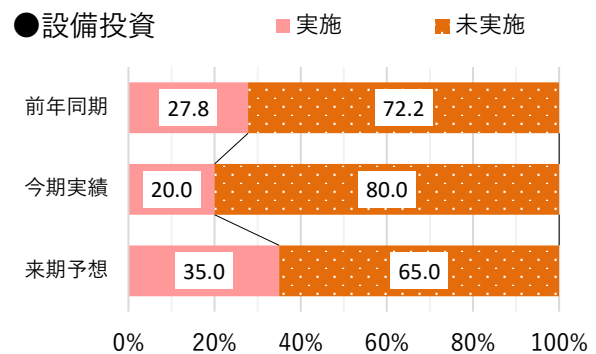
今期の資金繰りDIは▲10.6で、前年同期と比べ0.5ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ10.6ポイント上昇すると予想しています。



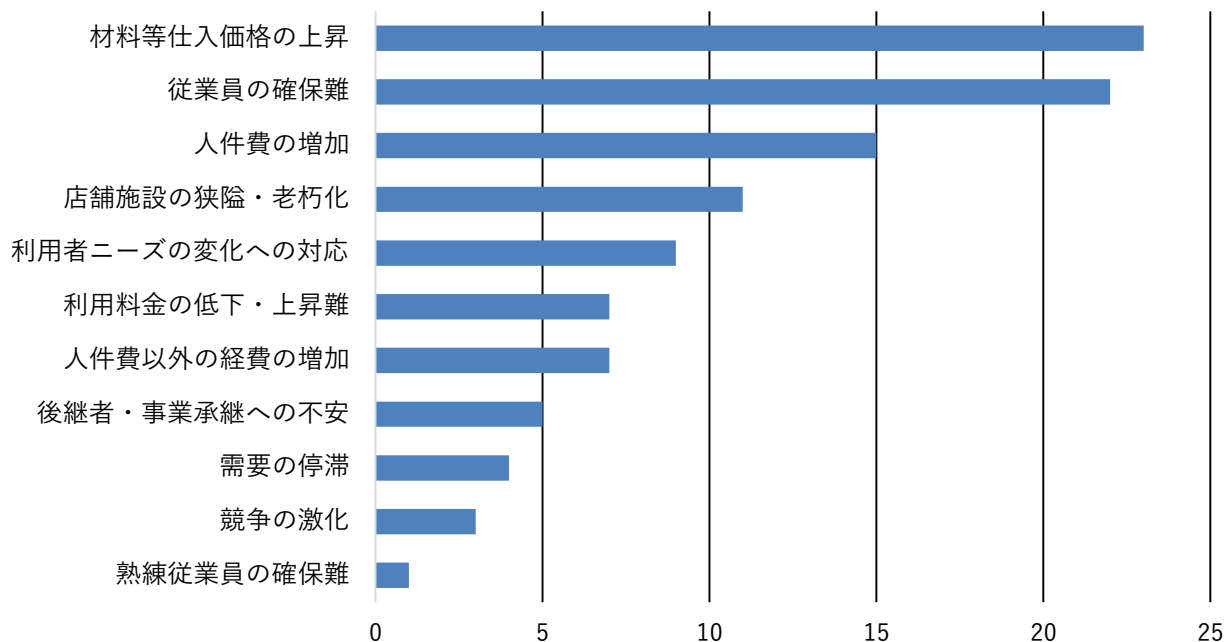
今期の設備投資は20.0%が実施と回答し、前年同期と比べ7.8%低下しました。投資内容は、1位が「建物」「サービス設備」「車両運搬具」「付帯施設」（同位）、2位が「福利厚生」でした。

来期は35.0%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 観光客比率が高まっているが、高市首相の発言による中国人観光客の減少が売上に響いている。また、扶養控除額の上限引き上げがあったが最低賃金の上昇を考えると上限の撤廃を望む。加えて、アメリカによるイラン攻撃も大きな不安材料である。（飲食店）
- 仕入価格が上昇し、冬場の来客数が若干減少した。（飲食店）
- 最低賃金の上昇分を価格転嫁したことで売上は上昇したが、利益率の変動はほぼ無い。（ビルメンテナンス）
- 売上額が増加した。（広告代理業）
- 全体の利用客は減少している一方で、インバウンドの影響により外国人利用客は増加している印象を受ける。（写真業）
- 客単価、売上額は僅かに上昇したが昨年秋から仕入価格も上昇し、業況は不変だった。（写真業）
- リネンサプライ事業は病院、医院の閉院により客数が減少傾向にあるが、契約物品の増加と値上げにより売上が上昇し、利益を確保している。人材確保では時給を上げて対応したが、1500円まで賃上げが進むことを想定すると先行きは厳しい。病院の診療報酬改定に期待している。（各種物品賃貸業）
- 最低賃金の上昇があり、人材確保の難しさを感じている。（廃棄物処理業）
- ガソリン代や新規ソフト導入費、生成AI関連のコストが上昇しているが、現状は自社で吸収可能で、業況は不変である。（情報処理・提供サービス業）
- 大雪の影響でキャンセルが多く、売上は現状維持となった。仕入価格の上昇が続いていたが少し落ち着きを見せた。（美容業）
- 新業態を立ち上げる計画をした。（出版業）

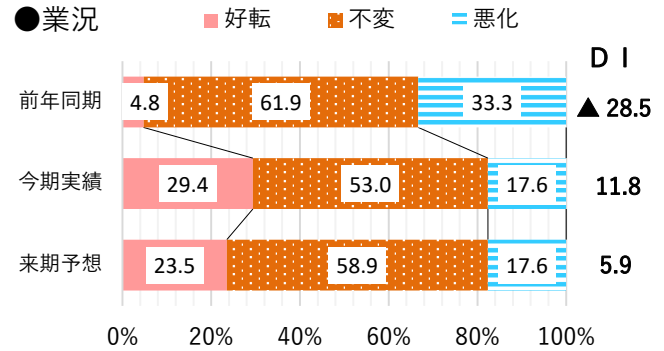
[来期の業況について]

- 観光客、地元客ともに増加を見込み、業況の好転を期待する。(飲食店)
- 観光シーズンに入るので売上の上昇に期待する。(飲食店)
- 原油価格高騰の影響がどの程度でるか予測がつかない。(ビルメンテナンス)
- 売上額は変わらないと見込む。(広告代理業)
- エネルギーの高騰と仕入価格の上昇で採算の悪化を見込む。(写真業)
- 病院の診療報酬改定の影響で業績の変動を見込む。(各種物品賃貸業)
- 仕入価格は上昇を見込み人材確保の予定はない。売上については不変と予想する。
(情報処理・提供サービス業)
- 前期のキャンセル分が今期に流れてくると思うので売上の上昇を見込む。また、賃金と人材確保はともに変化なしと予想する。(美容業)
- 新業態の発展を進めていけば、売上も見込める。(出版業)
- 新卒採用は好調で、従業員の増加に伴い売上の上昇を見込む。(スポーツ施設)

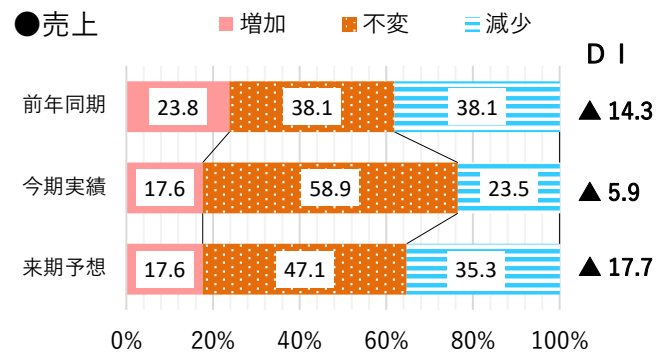
建設業

業況、売上、採算

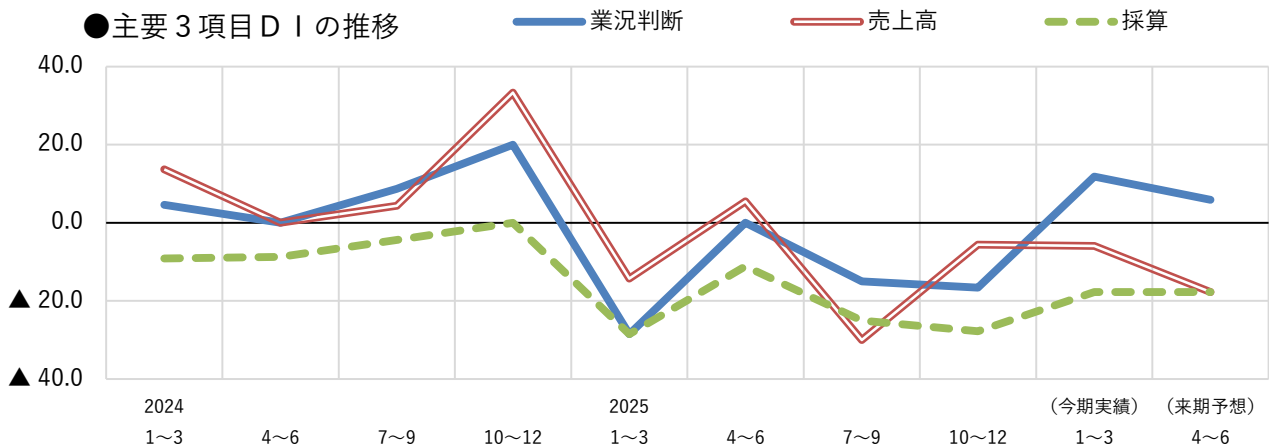
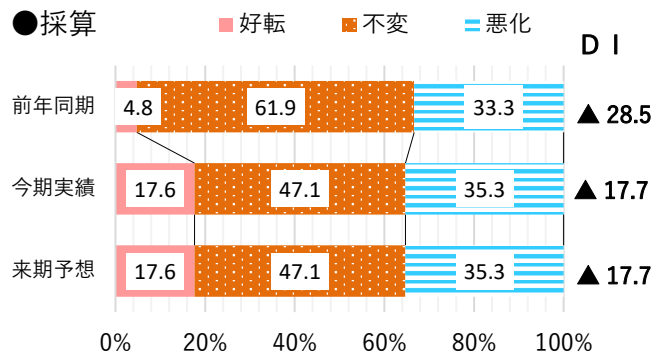
今期（2026.1～3）の業況DIは11.8で、前年同期（2025.1～3）と比べ40.3ポイントと大幅に上昇しました。
来期（2026.4～6）の業況DIは今期（2026.1～3）と比べ5.9ポイント低下すると予想しています。



今期の売上DIは▲5.9で、前年同期と比べ8.4ポイント上昇しました。
来期の売上DIは今期と比べ11.8ポイント低下すると予想しています。



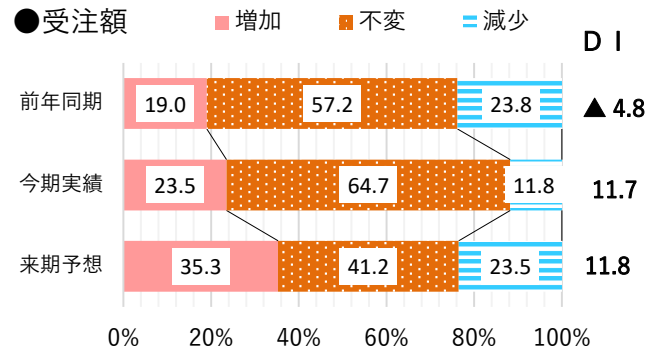
今期の採算DIは▲17.7で、前年同期と比べ10.8ポイント上昇しました。
来期の採算DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

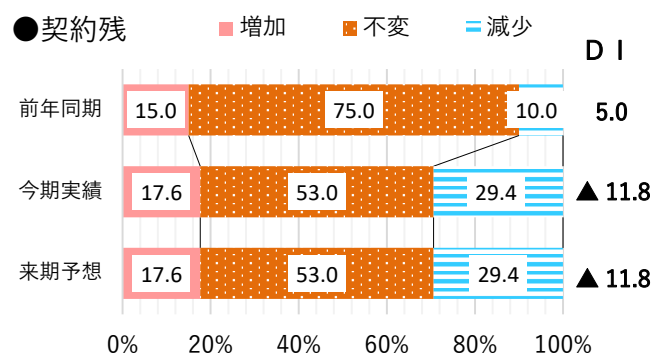
今期の受注額DIは11.7で、前年同期と比べ16.5ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは受注額と比べ0.1ポイント上昇すると予想しています。



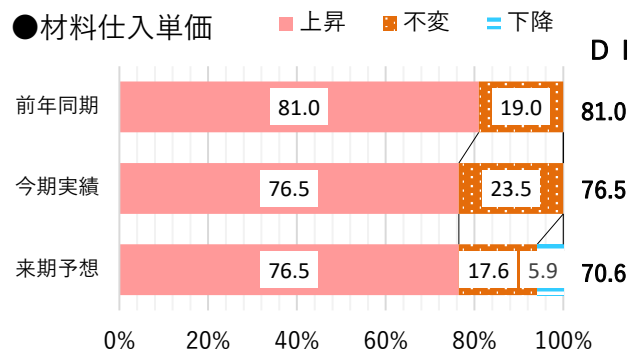
今期の契約残DIは▲11.8で、前年同期と比べ16.8ポイント低下しました。

来期の契約残DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



今期の材料仕入単価DIは76.5で、前年同期と比べ4.5ポイント低下しました。

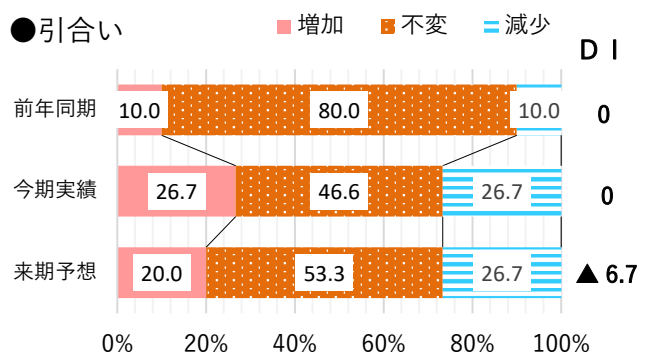
来期の材料仕入単価DIは今期と比べ5.9ポイント低下すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは0で、前年同期と比べ変化なしとなりました。

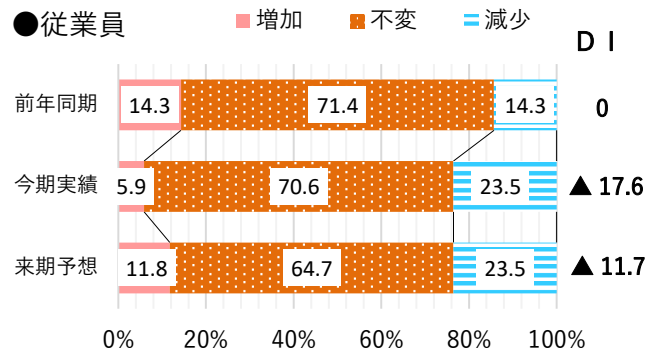
来期の引合いDIは今期と比べ6.7ポイント低下すると予想しています。



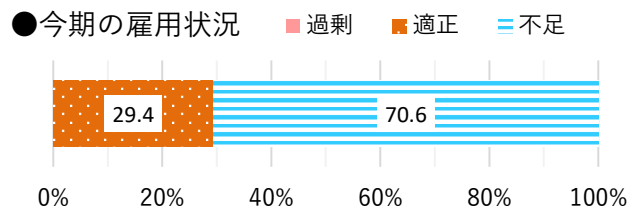
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲17.6で、前年同期と比べ17.6ポイント低下しました。

来期の従業員DIは今期と比べ5.9ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は29.4%、不足していると回答した企業の割合は70.6%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足である」という回答で、47.1%を占めました。

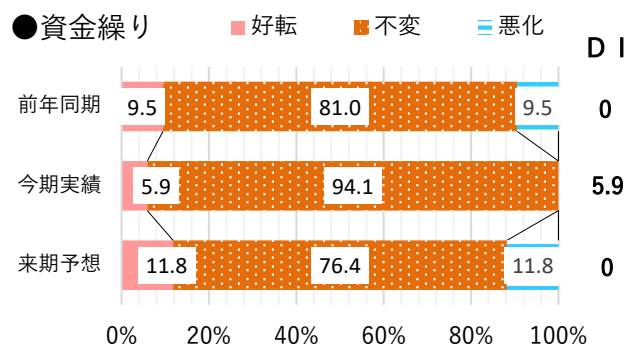
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	5.9%
	不足	0%
不変だった	過剰	0%
	適正	23.5%
	不足	47.1%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	23.5%

※回答総数17社

資金繰り、設備投資

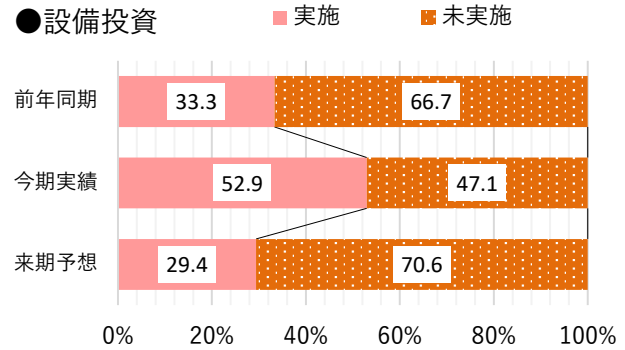
今期の資金繰りDIは5.9で、前年同期と比べ5.9ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ5.9ポイント低下すると予想しています。



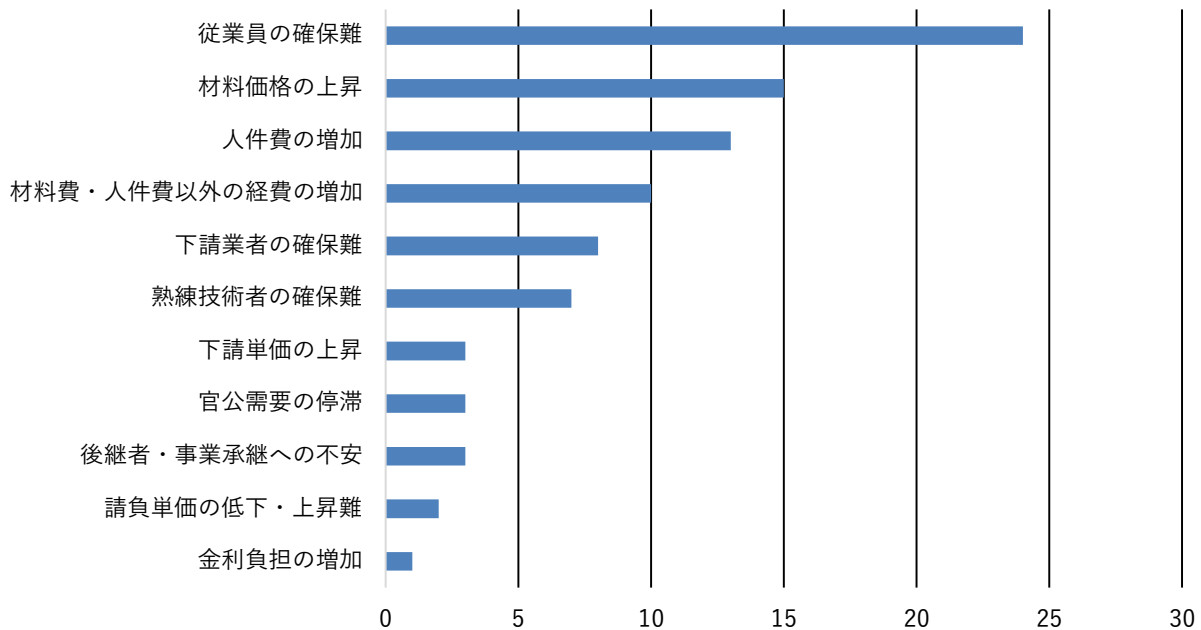
今期の設備投資は52.9%が実施と回答し、前年同期と比べ19.6%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」でした。

来期は29.4%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料価格の上昇」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 全体的な物価の高騰により仕入価格と売上額がともに上昇し、経常利益は不変だった。
(一般土木工事業)
- 中途採用者の定着率が芳しくない。(一般土木工事業)
- 人材不足が解消されない。(一般土木工事業)
- 人材不足が課題である。(一般土木工事業)
- この時期は工事の発注もなく毎年変化がない。(造園業)
- 売上額が減少した。(一般管工事業)
- 材料の仕入単価が上昇し、引き合いが増加している。また、受注数も増加しているが技術者不足で消化できていない。(電気工事業)

[来期の業況について]

- 新卒、中途者の採用を継続していく。(一般土木工事業)
- 人材不足の解消の見込みはない。(一般土木工事業)
- 国の来年度予算の編成時期にもよるが、4月以降は工事の発注の増加が予想される。(造園業)
- 受注が急激に増加する見込みもないので業況は不変を見込む。(一般管工事業)

市内企業倒産状況

2026年1月~3月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は5件、前年同期比増加
負債総額は45,098万円、前年同期比増加

	倒産件数	負債総額
	5件	45,098万円
前年同期比	件数 +5件 (前年同期 0件)	負債 +4億5,098万円 (前年同期 0万円)
■1月 解体工事（負債7,600万円：販売不振による破産）の1件が発生した。		
■2月 グループホーム経営（負債4,298万円：販売不振による破産）の1件が発生した。		
■3月 包装資材販売（負債9,000万円：販売不振による破産）、 パークゴルフ場経営（負債20,000万円：販売不振による特別清算）、 木材販売（負債4,200万円：販売不振による破産）の3件が発生した。		

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2026年1月~3月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は45件、前年同期比増加
新設着工住宅戸数は21棟21戸、前年同期比減少

	建築確認申請受付件数	新設着工住宅戸数
	45件	21棟21戸
前年同期比	件数 +1件 (前年同期 44件)	戸数 -5棟-5戸 (前年同期 26棟26戸)
※変更確認又は変更通知を除く。		